

令和6年度「やまぐちっ子の心を育む道德教育」プロジェクト推進校
研究サポート委員 実践事例集

NO.	学校	内容項目	学 年
1	岩 国 市 立 灘 中 学 校	よりよい学校生活、 集団生活の充実	中学校1年
2	岩 国 市 立 由 宇 中 学 校	思いやり、感謝	中学校3年
3	柳 井 市 立 柳 井 中 学 校	思いやり、感謝	中学校1年
4	平 生 町 立 平 生 小 学 校	感動、畏敬の念	小学校1年
5	下 松 市 立 公 集 小 学 校	公正、公平、社会正義	小学校6年
6	下 松 市 立 花 岡 小 学 校	親切、思いやり	小学校1年
7	下 松 市 立 中 村 小 学 校	規則の尊重	小学校2年
8	防 府 市 立 松 崎 小 学 校	相互理解、寛容	小学校3年
9	防 府 市 立 佐 波 中 学 校	友情、信頼	中学校1年
10	山 陽 小 野 田 市 立 出 合 小 学 校	善悪の判断、 自律、自由と責任	小学校1年
11	山 陽 小 野 田 市 立 厚 狭 中 学 校	勤労	中学校1年
12	下 関 市 立 養 治 小 学 校	公正、公平、社会正義	小学校4年
13	下 関 市 立 文 関 小 学 校	親切、思いやり	小学校1年
14	長 門 市 立 日 置 小 学 校	よりよい学校生活、 集団生活の充実	小学校5年
15	長 門 市 立 菱 海 中 学 校	よりよく生きる喜び	中学校3年
16	岩 国 市 立 岩 国 小 学 校	親切、思いやり	小学校5年
17	岩 国 市 立 平 田 小 学 校	生命の尊さ	小学校2年
18	岩 国 市 立 麻 里 布 中 学 校	思いやり、感謝	中学校3年
19	柳 井 市 立 柳 井 小 学 校	希望と勇気、 努力と強い意志	小学校6年
20	柳 井 市 立 新 庄 小 学 校	生命の尊さ	小学校4年
21	柳 井 市 立 大 畠 中 学 校	生命の尊さ	中学校2年
22	周 南 市 立 岐 陽 中 学 校	郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度	中学校1年
23	周 南 市 立 秋 月 小 学 校	公正、公平、社会正義	小学校2年
24	山 口 市 立 仁 保 小 学 校	親切、思いやり	小学校5年
25	山 口 市 立 秋 穂 中 学 校	国際理解、国際貢献	中学校2年
26	宇 部 市 立 厚 東 小 学 校	勤労、公共の精神	小学校5年
27	宇 部 市 立 二 俣 瀬 小 学 校	友情、信頼	小学校5・6年
28	宇 部 市 立 小 野 小 学 校	国際理解、国際親善	小学校1・2年
29	下 関 市 立 一 の 宮 小 学 校	よりよい学校生活、 集団生活の充実	小学校5年
30	下 関 市 立 勝 山 中 学 校	公正、公平、社会正義	中学校1年
31	萩 市 立 多 磨 小 学 校	公正、公平、社会正義	小学校5・6年
32	萩 市 立 須 佐 中 学 校	公正、公平、社会正義	中学校1年

～よりよい学校生活、集団生活の充実～

岩国市立灘中学校

1 本授業におけるポイント

- 自分ごととして考えられるように活動を工夫すること
(自分との関わりで主体的に考えさせる)
- 一人ひとりが自分の考えを表明し、友達の考えを知る機会を設けること
(思いを交流する時間を設け、多面的・多角的に捉えさせる)

2 授業の実践

1 主題・教材名 みんなをまとめる力「むかで競走」(日本文教出版)

2 ねらい

学校や学級の一員として自分のよさを生かして協力し、認め合って、学校生活を充実させようとする実践意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 これまで参加した学校行事がなぜ成功したのか考える。

教師：自然教室や体育祭など、これまでの学校行事の画像を見て、なぜうまくいったのか、自分は何を意識していたか思い出してみよう。

生徒A：リーダーの指示をしっかりと聞くようにした。

生徒B：時間を意識して動いた。

生徒C：全力、一生懸命。

生徒D：自分の役割を果たすこと。

なぜ、成功したと思いますか？

そのとき自分は何に気をつけ、どんなことをがんばりましたか？



○ 指導上の留意点・支援等

- ・めあては「みんなを〇〇〇〇力」として、伏せ字にして示し、集団に必要な力について最後に考えることを伝えておく。
- ・板書を写す必要はないので、しっかり考え、聞き、話して、感想が書けるようにメモ程度でよいと伝えておく。

(2) 展開 一宏に対しての反応について肯定派・否定派、それぞれの意見を発表する。

教師：「一宏がいなければうまくいく」という発言や雰囲気苦笑いする拓也をどう思うか。

生徒E：邪魔だと思うのは仕方がない。勝ちたいから。(肯定)

生徒A：リーダーはそういう発言を注意するべき。(否定)

生徒C：友達との関係もあるから、合わせてしまうかも。(肯定)

生徒D：合唱のとき、似たようなことを考えたから。(肯定)

生徒F：一宏は一生懸命まじめにやっているのに、そういうことを言うべきではない。(否定)

「一宏がいなければうまくいく」という発言や雰囲気苦笑いする拓也をどう思うか。

肯定(わかるわ～)

否定(だめでしょ)

・みんなをまとめるのは大変
・優勝したいのだから当然
・うまくいかず、いろいろな
気持ちになる

・リーダーとしてその発言を
否定するべきでは？
・「優勝」ばかり考えるのは
よくない

○ 指導上の留意点・支援等

肯定派、否定派それぞれ全員起立させ、意見を全体で共有する。意見を言える生徒から発表し、同じ意見であれば座るなど、それぞれの可能な形で全員参加させる。また、登場人物の行動の理由についても考えさせる。

(3) 終末 リーダーとして未熟だった拓也や、三年A組の変化について考え、集団を変える力について自分の言葉で語る。

教師：一宏も参加し、準優勝だった三年A組のむかで競走は、成功か失敗か。それはなぜか。

生徒D：優勝したかった人も多分いるから2位では成功ではない。

生徒H：三年A組の目標が全員完走に変わったから、成功

生徒C：雰囲気よかったから成功。

生徒 F : 一宏が笑っているから成功。

教師：三年A組の雰囲気よかったのはどうしてだろう。剛は「一宏当日休んでくれないかなあ」と言っていたのに。誰か剛のいいところが言えますか？出てきた人の「いいとこみっけ」をしてみよう。（右上資料）

教師：すてきな意見がたくさん出たね。では、このクラスではどうだろうか。どんな人でありたいか？どんな集団でありたいか？あなたにできることは何か？どうしたらそれが伝わるか？考えたことを書いてみよう。

それぞれの「いいところみつけ」～よかった点を挙げてみよう～

- ・一宏に声をかけ、一緒に練習をしていた広志と勇樹
- ・嫌なことを言われても、トラブルを起こしたりせず、最後まであきらめず練習した一宏
- ・練習に熱心に参加した剛
- ・反省するべきことに気づき、リーダーとして最後まで集団を支えた拓也
- ・目標が「優勝」から「全員、転ばないで、完走」に変わっていった三年A組

どんな人でありたいですか？

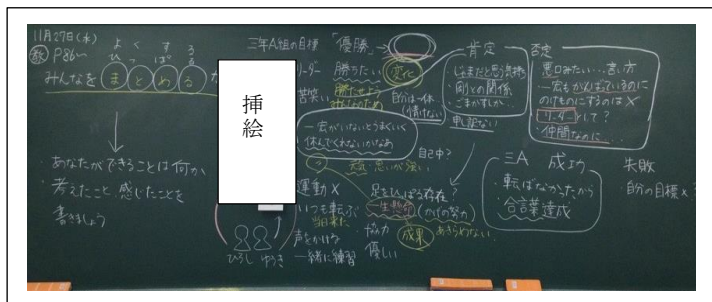
どんな集団でありたいですか？

あなたにできることは何ですか？

どうしたらそれが伝わりますか？

○ 指導上の留意点・支援等

- ・準優勝がよいものであると認識できる三年A組に変化した理由を、一人ひとりに焦点を当てて考えさせる。
- ・自分自身にもクラスを変えたり、支えたりする力があることに気付かせる。
- ・めあてに入る文字について考えさせる。



(出た意見)

- ・みんなをまとめる力
- ・みんなをひっぱる力
- ・みんなをよくする力
- ・みんなを笑わす力

3 評価について

述べた意見や、記述した感想で評価を行う。

○自分や仲間の悪い面だけでなく、よいところに目を向け、集団の中の一人として前向きに生活しようという姿勢が見えるか。

○集団を変えたり支えたりする力は、リーダーだけではなく、一人ひとりがもっているものだという意識をもつ姿が見えるか。

4 実践を振り返って

教科書には『まとめる力』と明記されているが、生徒は授業で考えたことから秀逸な解を導くことができた。

集団で何かに取り組むときに、「一番をめざしたい。」「よいものをつくりたい。」という気持ちが集団の雰囲気を感じくしゃくさせることがある。その立て直しを誰かのリーダーシップに頼るのではなく、自分なりのやり方や力で集団を支えることができるという視点をもたせたいと考え、あえて「まとめる」を伏せ字にしてめあてを提示した。集団の中で生きる自分の力について意識するきっかけになったと考える。

～ 思いやり、感謝 ～

岩国市立由宇中学校

1 本授業におけるポイント

- 身近な人だけでなく社会の人々との接し方も考えられるように発問を工夫し、ネームプレートを使って全員の意見を提示することで、活発な話し合いができるようにする。
- 地域の方へのインタビューや新聞の投書欄などを活用し、多面的・多角的な考えがもてるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 本当の思いやり「電車の中で」（日本文教出版）

2 ねらい

ケンたちの気持ちを多面的・多角的に考えて話し合う活動を通して、心の通い合いのよさに気付き、他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人に接しようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 学級委員が行っている挨拶運動（地域の方も参加）について考える。

教 師：学級委員会の挨拶運動に、卒業後、皆さんも地域の人として参加してくれますか。
生徒A：僕は、できるときは参加します。今まで、協力してもらったからです。
生徒B：卒業してしまったら、朝早く挨拶運動のために中学校に来ることは難しい気がします。

○ 指導上の留意点・支援等

さまざまな学校行事に地域の方が参加してくださることについて、改めて感謝の気持ちを抱き、将来は自分たちが地域の方の立場になることをイメージさせた。挨拶運動に参加して下さっている方に聞いたインタビューを紹介し、地域の方の思いを伝えた。

（2）展開 教材文を読み、ケンたちの「面倒なことになる可能性」をできるだけ避ける姿勢について、話し合いをする。

教 師：ケンたちは「面倒なことになる可能性」から、電車の席には座らないという選択をしましたが、みなさんならどうしますか。また、ケンたちの考え方をどう思いますか。
生徒A：席が空いているなら座って譲ればいいし、譲ることを断られても気にしません。
生徒C：短い時間なら立っていればいいから、座らないと思います。
生徒D：疲れていたら座ると思います。
教 師：ケンたちが言うように、他者との関わりの中で面倒なことが起きる可能性もありますが、あまりに互いに関わらない社会は過ごしやすいでしょうか。知らない人であっても、声をかけてもらうなどして嬉しかったという経験はありませんか。
生徒E：修学旅行で迷っていたときに、声をかけてもらって助かりました。

○ 指導上の留意点・支援等

「混み合っている電車の中で席に座るか、座らないか。」「ケンたちの考え方に共感できるか、できないか。」という視点から考えた自分の意見を、ネームプレートで黒板に示した。「電車の席を譲る」ことから「周囲との関わり方」に視点を広げ、互いの意見を尊重しつつ、さらに多角的・多面的に考えられるように話し合いを進めた。

(3) 終末 自ら人と関わる方法や場面を考え、道德ノートにまとめる。

教 師：ケンたちが席に座らず立っていたとしても、高齢の夫婦に席を譲る方法はありませんか。新聞の投書欄に載っていた記事を紹介します。(略) この記事から、感じたことを発表してください。

生徒F：知らない人に自分から声をかけるのは、かなり勇気が要ります。

生徒G：電車ではスマホを見るか、友達と話していることが多いけれど、周囲にも気を配るようにしたいです。

生徒H：声をかけてもらったときは、恥ずかしがらずに話して、お礼もきちんと伝えたいです。

教 師：現在の生活の中で、自ら人と関わることにチャレンジしてみませんか。何かできることはないか考えてみましょう。

○ 指導上の留意点・支援等

相手を尊重しながら、自ら他者と関わろうとする機会を広げられないか考えさせた。再度、挨拶運動に協力してくださる地域の方への感謝の気持ちを確認した。

3 評価について

○ 自分自身の生活を振り返り、他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人と関わろうとする気持ちがもてたかを発言やノートから見取る。

4 実践を振り返って

「考え、議論する道德」の授業を実現するために、次の手立てを行った。1点目は、学級委員会が主体となって行っている挨拶運動を手がかりとして、生徒自身が地域の一員として他者に支えられる立場でもあり、支える立場でもあることを実感させるようにした。2点目は、地域の方へのインタビューや新聞の投書欄の記事を活用するなどして、考えを広げたり、深めたりすることができるようにした。3点目はネームプレートを使って、自分の考えを示すことで、その後の意見交換が活発になるようにした。

課題としては、授業で考えたことを生徒自身の言動に反映させていく難しさが挙げられる。生徒たちは日常生活の中で、教材文にあるような混み合った電車に乗ることや全く知らない人と関わる機会は、少ないと考えられる。そこで、学校生活の中でも相手を尊重しつつ、関わり合いが増える場面がないかを考えさせたが、自分ごととして十分にとらえられているとは言えない。今後も生徒の実情を踏まえて、授業を展開していきたい。

～思いやり、感謝～

柳井市立柳井中学校

1 本授業におけるポイント

- 今までに家で叱られた経験の中で、自分がどんな気持ちをもったかを振り返り、自分が落ち込んでいるときや友だちが落ち込んでいるときに、相談するかどうか、声をかけるかそっとするかを黒板にネームプレートを貼ることを通して、自分の考えを整理する。
- 3～4 人の班に分かれて、自分が考えたそれぞれの立場での思いや接し方を考え、ロールプレイングを行うことにより、友だちとの関わりの中でどんなことが大切であるかを考える。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 その人が本当に望んでいること「思いやりの日々」
(東京書籍)

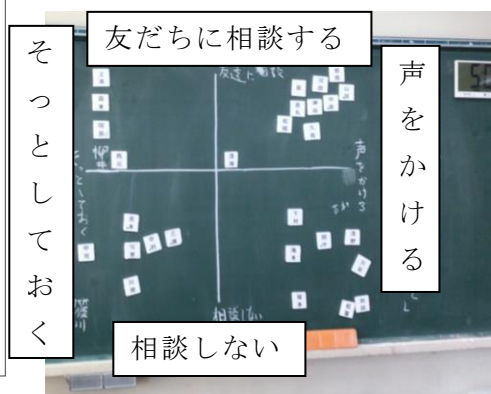
2 ねらい

教材の設定場面（家で叱られて落ち込んでいる友だちへの接し方）について、複数の立場から考えることを通して、相手の立場や気持ちを考え、思いやりをもって接しようとする意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 学校で落ち込んでいる友だちを見かけたとき自分ならどう接するか

- 教師：家で叱られたことを学校にきても落ち込んでいる友だちがいきました。そんな友だちを見たとき、自分なら声をかけますか？そっとしておきますか？また、自分がその落ち込んでいる本人だったとき、友だちに相談しますか？相談せず、何も言いませんか？
- 生徒A：自分はその友だちが気になるから、とりあえず声をかけます。自分が落ち込んでいる本人だったら、友だちにあってしまうかもしれないから、相談せずに自分で気持ちを切り替えるようにします。
- 生徒B：僕は誰かに言って、共感して欲しいし、言わなかったらぐるぐる考えてしまうから相談します。逆に、相手が落ちこんでいるときは、聞きづらいからそっとしておきます。



○ 指導上の留意点・支援等

4 つの分類別に、その行動を取る理由を明確にして意見をあげさせることで、多様な考え方があることを確認した。

- ##### (2) 展開
- 落ちこんでいる友だち A さん、A さんの友だち B さん、その様子を知ったクラスのほかの友だち（C さん）それぞれの立場の気持ちやどう行動するかを考える。

教 師：自分がそれぞれの立場だったら、どんな考えで、どう接したいか考えましょう。4人グループになり、A、B、Cの役割に分かれて、演じてみましょう。

生徒A：そっとしてほしいけど、心配するように話しかけられた。話そうという気になった。

生徒B：声をかけない方だけど、A役の人の様子をみて、ちょっと声をかけてみた。

生徒C：AもBも話しかけないタイプだったので、様子をみて自分から聞きにいった。

○ 指導上の留意点・支援等

友人に声をかけたがうまくいかなかったとき、どうすればよいのかを考えるように声をかけた。また、担当する役割を変えていろいろな視点で接してみるようにした。

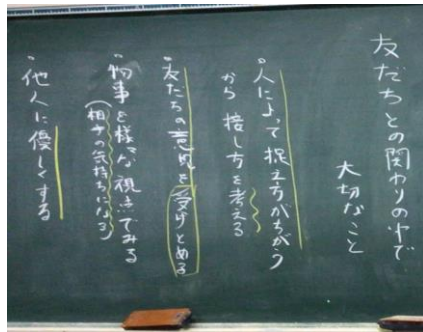
(3) 終末 友だちとの関わりの中で大切なことは何かを考え、クラスで共有する。

教 師：今、役割をそれぞれ演じた中で、上手く解決できた
ときのことを振り返りながら、友だちとの関わりの中
で、大切なことは何かを考えましょう。

生徒A：友だちが本当に求めていることを考える。

生徒B：友だちの様子をみて、寄り添う。

生徒C：友だちの気持ちを考えて接する。



○ 指導上の留意点・支援等

これからの友だちとの関わりの中で相手を思いやり、相手の視点で考えることの大切さに気付くために、ロールプレイを振り返りながら、自分の考えを深めるようはたらきかけた。

3 評価について

本校では、ワークシートの様式を全校で統一し、評価の視点を共有しやすくしている。特に級友の意見の中で、自分の考えにはなかったものをメモする欄を設け、考えの広がりや深まりを読み取っている。

本授業においては、班での話し合いの様子やワークシートの記述から、友だちと上手に関わるためには、相手の気持ちを思いやることが大切であると気付いたかということ

[illegible]

4 実践を振り返って

「考え、議論する道徳」授業を実現するために、次の手立てを行った。1点目は、自分が叱られた経験とそのときの気持ちを振り返る導入を行うことで、発問の「叱られて落ち込む人」の気持ちを自分ごととして考えることができた。

2点目は、自分または友だちが落ち込んでいるときにどういう行動を取るか、ネームプレートにより意見を視覚化することで、人によって望むことが違うということに気付かせた。それにより考えを深めることができた。

3点目に「落ち込んでいる人」「落ち込んでいる子の友だち」「級友」の立場でそれぞれロールプレイをする時間を設定したことである。これにより自分ごととして捉えることができた。生徒は、対話が中途半端に終わった場合やうまく励ませた場合を体験し、人との関わりには、相手を思いやる気持ちや言動が大切であることに気付き、これからの生活の中で意識していきたいという思いやりと相互理解について考えを深めることができた。

～感動、畏敬の念～

平生町立平生小学校

1 本授業におけるポイント

- 五感を大切にし、ICTを活用した学習
- 発問の工夫～児童の思考に沿った発問、自由な思考を促す発問～

2 授業の実際

1 主題・教材名 さわやかな気持ち「七つぼし」(Gakken)

2 ねらい

物語や自然の中にある美しさに触れ、それらを素直に感じ取ろうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 今までにきれいだな、美しいなと思ったものについて発表する。

教師：これまでに、きれいだな、美しいなと思ったものがありますか。

児童A：あさがお 児童B：桜 児童C：きれいになった教室の床 児童D：月

○ 指導上の留意点・支援等

質問の際に「美しさ」とはどういうものか伝え、子どもたちに共通の認識をもたせておく。また北斗七星の映像を見せて、美しさに触れさせる。

(2) 展開 教材を読んで考える。

教師：お話の中で見つけた「美しい」を発表しましょう。

児童A：ひしゃくが銀や金にかわったところ。

児童B：ひしゃくからダイヤモンドが飛び出して空に浮かんだところ。

児童C：女の子が旅人にお水を飲んでいいよと言った心。

○ 指導上の留意点・支援等

教師が旅人の役になり、女の子の役を児童にさせて役割演技を行い、自分よりも相手を思いやる女の子の美しい心に気付かせる。また、不思議なことが起きた場面の絵と、その時の登場人物の優しい気持ちがつながるような板書にすることで、すべての不思議なことが心の「美しさ」と結び付いていることが理解できるようにする。

教師：美しいダイヤモンドを見た時、女の子はどんな気持ちになったでしょう。

児童A：きれいだな。すごいなあ。

児童B：不思議なことが起こってびっくりした。

児童C：きれいなダイヤモンドだな、うれしいな。

○ 指導上の留意点・支援等

女の子の心情を考えることで、美しさや不思議さに触れた時のすがすがしさに気付かせたい。

(3) 終末 校庭で美しいと感じたものをタブレットで写真に撮り、伝え合う。

教師：学校の中の美しいものやきれいなものを探しに行つて、伝え合ひましょう。

児童A：秋の空のうろこ雲

児童B：まだ頑張つて咲いているアサガオ

児童C：園芸委員会の人が育てているお花の苗

児童D：ジャングルジムの影

児童E：いつも遊んでいる運動場にもたくさんきれいなものがあつたのだね。

○ 指導上の留意点・支援等

自分が撮つた美しいものを友達と見せ合つた後、全体で共有した。そうすることで、友達が見つけた美しいものに触れ、美しいものを更に見付けたいなという気持ちをもたせるようにした。

3 評価について

○ 美しいものに触れて、それらを素直に感じ取ろうという気持ちをもてたか、プリントの記述や写真から見取る。

4 実践を振り返って

「美しいものを、美しいと思う、あなたの心が美しい」という言葉がある。授業の終末、子どもたちに「美しいものをたくさん見たり、見付けたりすることでどんなよいことがあるのだろうか。」と、率直に問うてみた。子どもたちは、「うれしい気持ちになる。」「楽しくなる。」「きれいなものがもっと好きになる。」「誰かに言いたくなる。」と答えた。美しいものを愛する心は生活を明るくし、すがすがしい気持ちにつながるということを子どもなりの言葉で伝えていると感じた。

日本人の美意識は、自然との調和、季節感を大切にすることや、曖昧なもの、不完全なものにもよさを見出す心だと思う。大人も子どもも忙しい現代だからこそ、美しいものを見付けてはっと立ち止まったり、誰かと共有したりすることが大切だと、この学習で感じた。

生活科では「たのしい あき いっぱい」の学習で色付く葉っぱやかわいらしいドングリ、木の実をたくさん見つけた子どもたち。また、秋の夕暮れに見た三日月と金星の美しさも教室で話題になった。子どもと一緒に美意識を磨き、美しいものを愛する学校にしたいと思った。

～公正、公平、社会正義～

下松市立公集小学校

1 本授業におけるポイント

- 教材文の問題場面において、心の直線を用いて自分の考えを表したり、その理由について話し合ったりする活動を設定することで、子どもたち一人ひとりの考えを視覚的に捉えられるようにする。
- それぞれの登場人物の立場に立って考える発問を設定することで、物事を多角的に考えることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 かたよらない心 「森川君のうわさ」（光文書院）

2 ねらい

うわさ話が広がったことについて、登場人物の行動や会話から考えることを通して、一人ひとりが安心して学校生活を送るために、公平で公正な態度で行動しようとする道徳的態度を育てる。

3 学習指導過程

（１）導入 事前アンケートの結果を見て、今のクラスの実態について知る。

教 師：うわさ話を聞いて、いやな気持ちになったことはありますか。

児童A：ある。(57%)

児童B：ない。(43%)

教 師：平等に接することはよいと思いますか。それは、なぜですか。

児童A：よい。平等でないと、相手がいやな気持ちになるから。友達を不快にさせたくないから。

児童B：よい。平等でないと、傷つく人が出てきたり、いじめが起こったりすると思うから。

○ 指導上の留意点・支援等

事前アンケートの結果を提示し、本時の主題を自分ごととして考えることができるようにする。

（２）展開

① 本文を読み、自分が「ぼく」だったらどうするか考えたり、その理由について話し合ったりする。

教 師：自分が「ぼく」だったら、「ちがうよ」と言えますか。言えませんか。それはなぜですか。

児童A：言える。正直に言うことはよいことだから。

児童B：言えない。友達との関係が悪くなってしまうかもしれないから。自分を守りたいから。

○ 指導上の留意点・支援等

自分が「ぼく」だったらどうするか、心の直線にネームプレートで自分の立

場を明らかにさせたり、その理由について話し合ったりすることで、児童が様々な友達の考えを知ることができるようにする。

② 「順子」の発言を聞いた「ぼく」の思いについて話し合う。

教 師：順子さんの発言の後、「ぼくも発言しないといけない」と思ったのはどうしてでしょう。

児童A：自分と同じ考えの人がいて、勇気が出たから。

児童B：森川君だけでなく、順子さんのためにも発言しないといけないと思ったから。

児童C：ずるい気持ちのままではだめだと思ったから。自分でも悪いことだと分かっている、自分を変えたいと思ったから。

児童D：もう後悔したくないと思ったから。

○ 指導上の留意点・支援等

机間指導で、児童が書いていることを価値付け、発表しやすいようにする。

(3) 終末 学習を振り返り、これからの自分について考える。

教 師：これまでの生活を振り返り、これからどんなことに気を付けて生活していきたいですか。

児童A：周りのみんなに流されるのではなく、相手がどう思うか考えて、発言したり行動したりするようにしたい。

児童B：これまでは、「自分がいじめられたらいやだから…」と思って動くことができないことがあったけど、ずるい気持ちのままではだめだと分かったから、これからは、だめなことはだめだと正直に伝えるようにしたい。

児童C：正しいことを言わないと、後悔の気持ちが残ってしまうから、自分のためにも相手のためにも勇気を出すことが大事。

○ 指導上の留意点・支援等

導入で示した事前アンケートに再度触れることで、自分の生活場面について具体的に振り返ることができるようにする。

3 評価について

○ 困っている人を助けることができない「ぼく」の心の葛藤について考えているか、板書のネームプレートや児童の発言から見取る。

○ 振り返りの際に、児童が公平で公正な態度についてどのように考えたかノートや発言から見取る。

4 実践を振り返って

「ぼく」の心の葛藤について考えたことで、正しいことを言いたくても言えない心の弱さが人間にはあるということを改めて理解し、それでも友達のために行動することのできる強い意志や勇気が必要であると気付く児童が多くいた。また、周りの人に流されてしまうことで、苦しむ友達がいてはいけないという思いをもつ児童もいた。しかし、実際の生活の中で正しいと思うことを行動に移すには至らない児童もいるため、教材から離れて、自分ごととして物事を深く考えるための展開や発問の工夫をしていく必要がある。

～親切、思いやり～

下松市立花岡小学校

1 本授業におけるポイント

- ペアやグループで意見交換をさせることで、全体で発言しやすい雰囲気づくりを行う。また、児童の発言に問い返したり、発言の類似点や差異点を確認したりすることで、学びを深めることができるようにする。

2 授業の実際

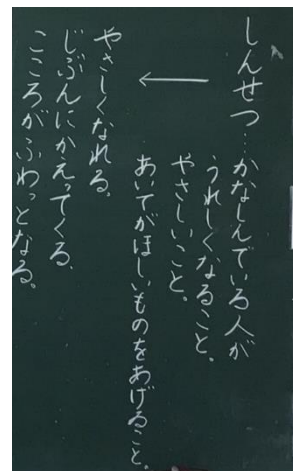
- 1 主題・教材名 しんせつなところで 「はしのうえのおおかみ」（東京書籍）
- 2 ねらい

意地悪をしていたおおかみが優しい言動をとった理由を考える活動を通して、親切にされたりしたりしたときの気持ちのよさに気付かせることで、身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育てる。

3 学習指導過程

- (1) 導入 「親切」とはどういうことか、「どうして親切にするとよいのか」ということについて考える。

教 師：「親切」とはどういうことだと思いますか。
 児童A：相手が欲しがっているものをあげることだよ。
 児童B：優しくすることだよ。
 児童C：悲しんでいる人がうれしくなることだよ。
 教 師：親切にすることは大切だと思いますか。
 多 数：そう思うよ。（挙手）
 教 師：どうして親切にするとよいのでしょうか。
 児童D：親切にすると、自分が優しくなれるからだよ。
 児童E：心がふわっとなるからだよ。
 教 師：「心がふわっとなる。」とは、どういうことですか。
 児童F：優しいということかな。
 児童G：自分に返ってくるからだよ。
 教 師：「自分に返ってくる。」とは、どういうことですか。
 全 体：よく分からないな。

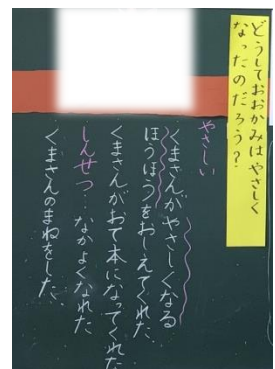


- 指導上の留意点・支援等

「親切」とはどういうことか、「どうして親切にするとよいのか」ということについて考えさせ、本時のねらいの方向付けを図るとともに、導入時と終末で親切について考えを比較させることで、学びを深めることができるようにする。

- (2) 展開 意地悪をしていたおおかみが優しい言動をとった理由を考える。

教 師：どうして、おおかみは優しくなったのでしょうか。
 児童A：くまさんがお手本になってくれたよ。
 児童B：優しくすると、よい気持ちになれるよ。
 児童C：くまさんは優しくてすてきだったから自分も優しくしようと思ったのではないかな。
 児童D：くまさんに親切にされて、仲良くなれると分かったから真似をしたのだと思うよ。
 児童E：くまさんに、戻るように言われると思ったけど、抱き上げて通してくれた姿がかっこいいと思ったのではないかな。
 児童F：優しくすれば傷つかない。みんなが優しい気持ちになるし、みんながうれしいよ。

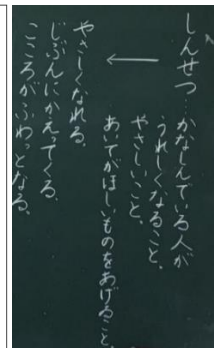


○ 指導上の留意点・支援等

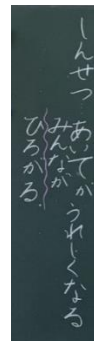
くまに抱きかかえられた時やうさぎを抱きかかえた時のおおかみの気持ちや誰がよい気持ちになったのかを考えさせることで、親切にされたりしたりすることの気持ちのよさや広がり気付くことができるようにする。

(3) 終末 「どうして親切にするとよいのか」ということについて再び考える。

教 師：どうして親切にするとよいのでしょうか。
児童A：親切にすると、相手が嬉しくなるからだよ。
児童B：みんなが嬉しくなるからだと思うよ。
教 師：「みんなが嬉しくなる。」とはどういうことですか。
児童C：親切にすると、相手も自分もよい気持ちになるよ。
児童D：おおかみがくまさんの真似をしたみたいに、親切が広がったということだよ。
教 師：授業の最初に出た「自分に返ってくる。」とは、どういうことか分かりましたか。
児童E：相手に優しくすれば、自分も優しくしてもらえるかも。
教 師：みんなが言ったように、親切が広がるとすてきですね。



導入時



終末

○ 指導上の留意点・支援等

「どうして親切にするとよいのか」ということについて再び考えさせることで、導入時で出た抽象的な意見に対して理解したり、親切について考えを比較し学びを深めたりすることができるようにする。

3 評価について

発言から、親切にされたりしたりしたときの気持ちのよさに気づき、身近な人たちに親切にしようとするということについて考えを深めているか評価を行う。また、役割演技を取り入れ、振り返りを全体で共有し様々な考えに触れさせることで、学びを深めることができるようにする。

児童A：これから、みんなにたくさん親切にしたいな。
児童B：今まで、友達に親切にしてもらったから、わたしも同じように親切にしたいな。

【役割演技の様子】

教 師：例えば、狭い通路を通るとき、みなさんはどうしますか。
児童C：〇〇さん、お先にどうぞ。
児童D：ありがとう。
児童C：どういたしまして。

4 実践を振り返って

自分との関わりで主体的に考えることができるようにするために、導入時に「どうして親切にするとよいのか」と発問した。その際に出た意見について、児童間で共感できる部分と理解が難しい部分が出たことは、考える必然性をもたせることにつながった。児童の思考に沿った発問を意識しながら授業を展開したが、教材にある「意地悪をしたときのいい気持ち」と「親切にしたときのいい気持ち」を比較させる時間が十分にとれなかった。誰に対しても親切にすることのよさを実感させるために、構造的な板書の工夫やポイントとなる意見に立ち返りながら考えさせる必要性を感じた。今後は、より主体的に考えることができるための発問や問い返しの工夫と一人ひとりが本音を語ることをできる授業づくりに努めたい。

1 本授業におけるポイント

- 約束やきまりは、先生に言われたから守る、怒られるから守るのではなく、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることに気付けるよう、身近な問題に結びつけながら思考できるような発問や問い返しをする。
- 役割演技等の類似体験的な表現活動を行うことを通して、二人の思いや行動を自分ごととして捉えてねらいに迫ることができるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 みんなが つかう みんなの もの
「きいろいベンチ」 (東京書籍)

2 ねらい

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする道徳的態度を育てる。

3 學習指導過程

- (1) 導入 身の回りの物や場所を使う時の気持ちを交流する。

教師：みんなが使う物ってどんな物？大切に使っている？

児童A：クラスのボール。

児童B：図書室の本。

児童C：運動場の遊具。

児童D：みんなの物も大切に使っている。

児童E：みんなの物をたまに大切に使えてないときがある。面倒で本をきれいに本棚に並べていないときがある。

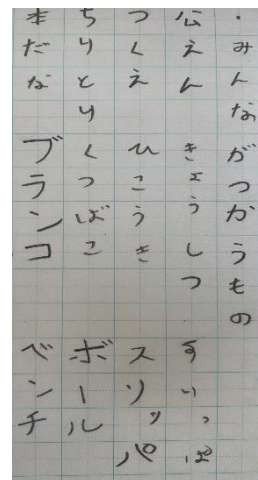
児童F：少しぐらいいいかと汚く使うときがある。

教師：写真を見てどう思う？

(大切に使われていない場所の写真を提示する)

児童G：ごみがたくさん落ちている。

児童H：誰がやったのだろう。よくないな。



- 指導上の留意点・支援等

身の回りにある物の写真を提示することで、みんなで使う物が身の回りにたくさんあることを認識できるようにする。また、教室の本棚が整理されていなかったときやゴミが落ちている公園の写真を提示し、公共物と自分の関わりについて関心がもてるようにする。

- (2) 展開 資料を読み、みんなが使う物を使うときに大切なことについて考える。

教師：たかしとてつおの遊び方は、どうだろうか。

児童A：ベンチに乗って紙飛行機を飛ばしていてよくない。

児童B：ベンチを二人がよごして、女の子がかわいそう

児童C：ベンチを泥だらけにしているから悪い。

教 師：なぜ二人はベンチに乗ってしまったのだろうか。

児童A：紙飛行機をとばすのに夢中になっていたから。

児童B：楽しいから。

児童C：もっと紙飛行機をとばしたいから。

教 師：はっとした二人は、何に気付いたのだろうか。

児童A：楽しい気持ちでいっぱい、他の人に迷惑かけたことに気付かなかった。

児童B：女の子に悪いことしたな。

児童C：周りの人のことを考えずに遊んでしまった。

○ 指導上の留意点・支援等

ベンチに乗ったときの二人の気持ちと、はっとしたときの二人の気持ちについて問うことで、はっとする前と後では二人の意識に違いがあることに着目させる。（前は、つい夢中になり自分本位な心であったが、後は、他者のことを考える心があったこと）

（3）終末 二人に話しかける言葉（アドバイス）を考え、ペアで動作化する。

教 師：みんなだったら二人に何と声をかける？（アドバイス）

児童A：周りの人のことも考えて使おうね。

児童B：自分もそんなことがあったから、次から一緒に気を付けようね。

児童C：みんなで使う物は、自分のことだけでなく、みんなのことを考えて使おうね。

児童D：一緒に違う遊びをしよう。（ベンチに乗ることはいけないことだけど注意はできないから、紙飛行機飛ばしから気をそらせる。）

○ 指導上の留意点・支援等

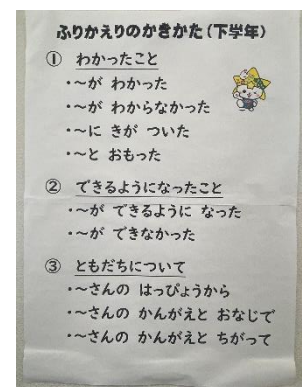
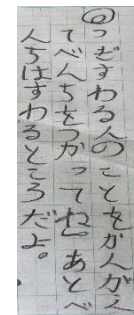
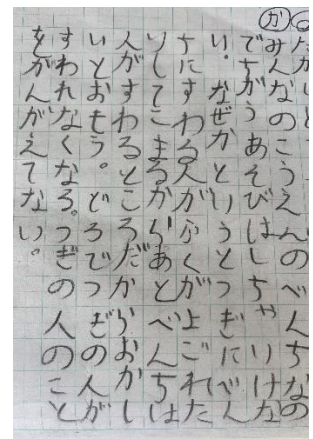
二人の思いや行動を自分ごととして捉え、二人へのアドバイスを考えることを通してねらいに迫ることができるようにする。

3 評価について

- 児童が一面的な見方から多面的な見方へと発展させているかどうかにおいて、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることを、発言やノートから見取る。
- 振り返りの書き方を提示することで、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか、今後どうしていきたいかをノートから見取る。
- 道徳ノートに蓄積していく。

4 実践を振り返って

役割演技をすることで、自分ごととして捉えながら、みんなのものを使うときのことについて考えることができた。身近な問題だったので、自分の生活のことを振り返ることができた。しかし、中心発問から道徳的価値に迫ることが難しかった。みんなが使う物を使うときに大切なことは何かを問うことより、道徳的価値に迫ることができたのではないかと思う。また、ICTを効果的に使い、思考の変容を視覚的に表すことができるようにすると、児童自身が授業前と授業後での自分の変容に気付くことができたのではないかと考える。



～相互理解、寛容～

防府市立松崎小学校

1 本授業におけるポイント

- 教材の状況を理解させるために、提示の仕方を工夫する。
- ワークシートの形式を工夫することにより、自分の思いをかく楽しさを味わわせる。
- 机の配置を変えたり、ワークシートを読み合ったりさせるなど、話合いの形態を工夫することにより、自分の考えを友達に伝えることや友達の考えを受け止めることができるようにさせる。

2 授業の実際

1 主題・教材名 おたがいの思いをわかり合う

「かしたつもり×もらったつもり」（東京書籍）

2 ねらい

自分の考えを相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる考えを大切にしようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 教材文の設定を理解し、登場人物の気持ちに共感させる。

教師：れんは、どんな気持ちだったでしょう。
 児童A：大切な図鑑をせっかく貸してあげたのに、なぜこんなふうにしたんだ。
 児童B：ぼくのだいじな図鑑を汚したから、だいちなんかきらいだ。
 児童C：元に戻せない。どうしてくれるんだ。許さない。

○ 指導上の留意点・支援等

本教材の設定は、児童が日常で経験していると思われる設定である。しかし、児童は実際にその事実を客観的に把握できるわけではない。そのため、初めに教材文を「れん」の立場で読み聞かせ、「れん」の気持ちをしっかりと理解させたい。その上で、挿し絵や効果音を活用しながら、教材文を読み、本来の場面設定を理解させることにした。

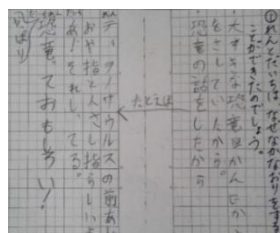
(2) 展開 登場人物二人が自然と元通りの関係になったことから、相手のことを理解することの大切さについて話し合う。

教師：二人はなぜ、仲直りをすることができたのだろう。
 児童A：お互いに相手のことを考えて行動したから。
 児童B：もとは仲良しだから、自然に仲直りできる。
 児童C：二人とも、自分の気持ちを相手に話したから。

○ 指導上の留意点・支援等

二人の仲直りのきっかけとなった会話を考えさせることで、相手のことを思って行動したり、自分から歩み寄ろうとしたりすることのよさを感じ取らせたい。ワークシートの形式を工夫し、二人が向かい合って会話をしている様子を想像しながら楽しくかいてほしいと考えた。

また、そこから二人が仲直りすることができた理由を話し合うことを通して、学級の友達の相手を思う発言に触れ、自分のことばかりを考えるのではなく、相手のことを理解しようとするのが、良好な人間関係をつつていくことになると思う。



＜参考文献＞池田ほなみ(2024)「折ってびっくり！ワークシート」

『道徳教育』(No795)、P46-47

(3) 終末 本時の学習を生かし、これまでの自分の生活から具体的な場面を振り返る。

教師：最近けんかしたことから、相手の気持ちやその理由を想像してみよう。

児童A：この前〇〇くんとけんかしたけど、ぼくが「～と言ったのがいやだったのかもしれないな。

児童B：お姉ちゃんが怒っていたけど、こういうことだったのかな。

児童C：〇〇さんとけんかしたとき、自分から話しかければよかったな。

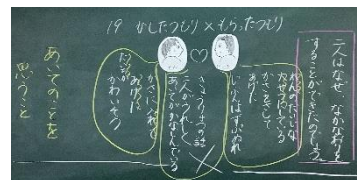


○ 指導上の留意点・支援等

児童に周囲の人と行き違ってしまった経験を思い起こさせることで、そのときにも相手に事情があったのかもしれないと、自分の生活に結びつけて考えられるようにしたい。また、ワークシートを持って自由に交流させることにより、読み合う、伝え合う、聞くなど、それぞれの方法で自分の考えを表現することができるようにしたい。

3 評価について

- ワークシートの記述、授業中の発言、友達との交流の様子を評価の材料とする。
- ワークシートを見て、自分ごととして捉えているか見とる。
- 友達の意見と自分の考えを比較している発言や様子を見とったり、友達の考えのよさをワークシートに書いている児童を取り上げたりして、多面的・多角的に考えているかどうか見とる。



4 実践を振り返って

本時は、自分が担任をしていない学級で授業をした。担任ではない教師が道徳科の授業をしたり、同学年内でローテーション道徳をしたりする良さもあるが、改めて担任が道徳科の授業をすることの大切さを感じることもあった。やはり展開部分では、学級全体でテーマについて議論する時間をとることが、学級づくりにつながると感じる。自分の力不足もあり、多くの児童が話したい、聞きたいと思える時間を演出することができなかった。

本教材は、児童の日常生活であり得る状況が設定されている。児童は、本時のテーマである相互理解や寛容の態度があれば、よりよい人間関係を築いていけると気付くことができる内容である。教材文の設定等を児童に理解させるために、文章の読み聞かせ、挿し絵や効果音の活用、ワークシートの工夫などにより、児童が登場人物の心情に寄り添うことができたと思う。特に、文章の読み取りが苦手な児童が、互いを誤解してしまった登場人物の気持ちを一生懸命に考えていたのが印象的だった。一方で、終末で一般化することが難しく、児童が自分の生活に結び付けて考えることに課題が残った。相手の気持ちやその理由を想像するためには、具体的な場面を思い浮かべるのがよいと考えたが、児童の振り返りは表面的なものになってしまった。

道徳科の授業は、児童の道徳的な実践意欲や態度を育てるために、いかに児童の実生活につなげていくかという課題を意識して授業を行っていかなければならないと考える。それが、児童の人間関係づくりのヒント、担任の学級づくりの基盤になるということを、本時の指導の機会を得て、再認識することができた。

～友情、信頼～

防府市立佐波中学校

1 本授業におけるポイント

- 思考ツールを用いたワークシートで思考の広がりや意見の整理を促す。
- これまでの学習とのつながりを意識させる授業構成を計画する。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 友達とともに 「親友」（光村図書）
- 2 ねらい

「僕」と美咲との友情について考え、話し合うことを通して、性別にとらわれない友情や信頼関係について考えさせ、友情を大切にしていこうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 自身の「友情」観について振り返る。

教 師：あなたにとって「親友」とはどんな存在ですか。

生徒A：すごく仲のよい友達。

生徒B：一緒にいて安心できる人。信頼できる。

生徒C：色々相談できて、自分のことを理解してくれている。

教 師：では、あなたも親友にとってそういう存在だと思われているだろうか？

生徒D：うーん、どうかな。

○ 指導上の留意点・支援等

導入では、親友に対する自分の考えや自分自身の過去を振り返らせることで、「自分ごと」として捉えるきっかけにした。また、「信頼」など友情に関するキーワードを板書し、終末の振り返りにつなげられるようにした。

（2）展開 「僕」と美咲の友情関係に必要なことについて考える。

教 師：「僕」と美咲がこれからも親友でいるために必要なことは何だろうか。

生徒E：周りの目を気にしすぎない。

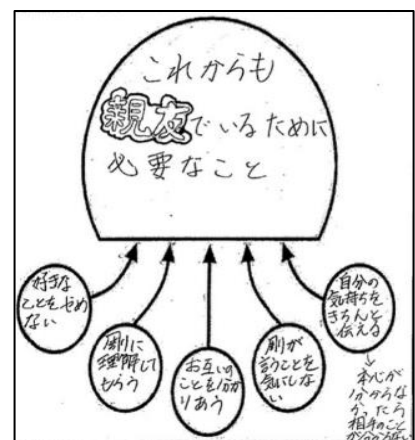
生徒F：自分の考えを美咲やクラスの人にきちんと伝える。

生徒G：自分らしく堂々と生きる。

教 師：自分らしく生きるってどういうこと？似たような意見の班はある？

生徒H：性別とか関係なく、自分が好きなことをしていく。

教 師：それが自分らしく生きるってことか。この意見って、これまで出た意見のどれとつながりそうかな。



思考ツール（クラゲチャート）を用いたワークシートで考えを広げ、深める。

○ 指導上の留意点・支援等

展開では、主発問に対する考えをクラゲチャートにして書かせた。短い言葉でまとめることで書くことへの抵抗を減らし、多面的な視点から意見を考えやすくすることを意図した。板書の際は、生徒に聞きながら意見を分類し、クラゲの足をまとめた。

(3) 終末 本時の学習を振り返る。

教師：今日の授業で考えたこと、聞いたことを踏まえて、「真の友情」というタイトルで振り返りを書こう。

生徒I：友達のことを思いやり、自分の気持ちを隠さずに伝えられることだと思います。真の友情をつくるのは難しいことだと思うけれど、真の親友を一人でもつくるのができたらいいと思いました。

生徒J：私はきちんと自分の気持ちを伝え合えるのが真の友情だと思います。自分の気持ち、思っていることを言えなかったら親友じゃない！

児童K：私は「真の友情」とは、自分らしさを認め合えることではないかと考えました。まず、自分らしさを認め合えなければ気も合わないと思うし、認め合うことでより仲がよくなると思ったからです。

○ 指導上の留意点・支援等

発表の中で出てきたキーワードを肯定的に価値付けた。また、振り返りを書くのが難しい生徒には、それらの言葉を使って書くように助言した。

3 評価について

○ 話し合いや授業での発言、ワークシートの記述から、友情に対する様々な考えがあることに気づき、自分の考えを深めようとしているか。

4 実践を振り返って

本実践後、休み時間に「クラゲチャートで書くと分かりやすい。小学校でも同じものを使って書いていた」と話す生徒が多かった。共通の主題やワークシートなど、小学校との連携によって思考の広がりや深まりをさらに発展させることができるのではないかと考える。

本校は、発達段階や学校行事から予想される生徒の状態、教材の内容のつながり等を踏まえて、年間計画を設定している。この資料はLGBTの内容を扱った人権参観日の授業後に設定した。展開時に「男女関係なく、自分らしく」という意見が出た際、「この前の授業も同じような考え方が出ていたよね」とある生徒がつぶやくと、「あ～確かに！」と他の生徒も口々に共感した。これまでの学習をつなげて考え、そのつながりをクラスで共有できた瞬間だったように思う。

本校の課題として、展開時の自分の意見や、終末時の振り返りに表面的な内容しか書けない生徒が複数いることが挙げられる。「どの生徒も自分の考えを言いたくなる」「他の人の意見を聞き、話し合いたくなる」発問を全校体制で磨いていけるように、校内研修やローテーション道徳などを通して、継続して取り組んでいく必要がある。

～善悪の判断、自律、自由と責任～

山陽小野田市立出合小学校

1 本授業におけるポイント

- 事前に子どもたちの生活に関わるアンケートを実施し、誰もがいけないと分かっているとしてもしてしまう弱さがあることに気付くことができるようにする。
- 机をコの字型に配置し、児童が自分の考えを共有する場を多く設定することで、お互いの顔を見合わせながら学習できる環境を整える。友だちと安心して話し合う場を活用することで、語彙が乏しく言葉にできない感情を言語化し、語彙の習得へと繋げる。また、役割演技やうさぎたちへの手紙を書く活動を取り入れることで、児童が自分の感情を表現できるようにしたい。

2 授業の実際

1 主題・教材名 だめなことはだめだよ「にんじんばたけで」（日本文教出版）

2 ねらい

人参メーターを活用しながら、うさぎの葛藤を考える学習を通して、よいことと悪いことを区別して、よいと思うことを進んで行おうとする道徳的態度を育てる。

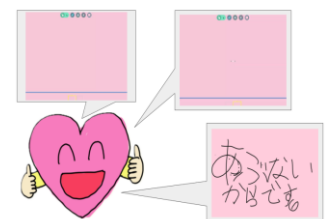
3 学習指導過程

(1) 導入 本時の課題をつかむ。

教師：してはいけないと分かっているのにしてしまったことはありますか。アンケートの結果を見てみましょう。

児童A：廊下を走った。

児童B：チクチク言葉を使った。



○ 指導上の留意点・支援等

自身の生活の中で分かっているとしてもしてしまう弱さが誰にでもあることに気付くことができるようにする。

「よいこと」は事前に提出した児童の録音データを流し、「悪いこと」については、教師がまとめたものを提示する。

(2) 展開 「にんじんばたけで」について話し合う。

教師：たくさんのにんじんを見つけたとき三びきはどんなことを思ったでしょう。

児童A：やったあ！

児童B：うれしいなあ。

児童C：食べたいなあ。

・はやく あそびに いきたいから。
・ほかのこも はしっているから いっかあ。
・気づいたら はしっていた。



人参メーター



○ 指導上の留意点・支援等

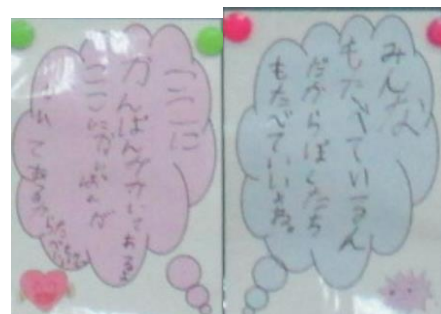
人参メーター（人参を食べたいという気持ちを数で表したものを）を活用することで、にんじんを食べたい気持ちを1年生

の児童にも視覚的に理解できるようにする。

教 師：顔を見合わせたうさちゃんとゆきちゃんは心
の中でどんなことを思っていたのだろう。

児童A：にこにこくん（良い心）の気持ち
→食べたいけど、看板に「畑に入るな」と書
かれているからだめだね。

児童B：チクチクくん（悪い心）の気持ち
→みんなも食べているんだから、ぼくたちも
食べていいよね。



吹き出しに入る言葉を考え役割演技をする
ことで、にんじんを食べたい気持ちと人の畑
だからだめだという心の葛藤を読み取ることができるようになる。

(3) 終末 自分の生活を見つめる。

教 師：【ダメだと分かっていることをみんながしていても…】の後にはどんな言葉が入
りますか。それはどうしてでしょう。

児童A：ぼくはしない。ダメなことはダメ。

○ 指導上の留意点・支援等

悪い事をしている友だちにダメだと言えるか否かを理由も含めて記入し、ロ
イロノート・スクールのアンケート機能で集計する。仲のよい友だちには、言
えないかもしれないという児童の思いにも共感し、他の対応を一緒に考える。

3 評価について

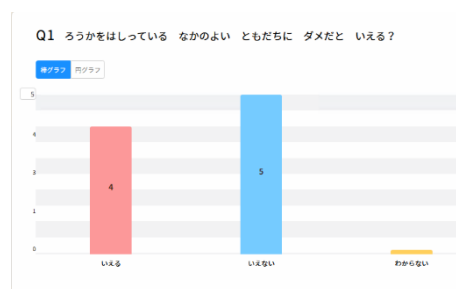
良いことと悪いことを区別し、良いと思うことを進んで行うことの大切さについて考えを
深めているか。（ワークシート・発言）

4 実践を振り返って

本学級の児童は、「良いこと」と「悪いこと」
の分別をきちんとつけることができる。しかし、
「ダメだと分かっているけれど、ついついしてし
まう」のが人間としての弱さである。人間は誰し
もその弱さをもっており、揺れ動きながらも正し
いと思ったことを実行していったほしいと思い、
本時の授業を行った。

事前アンケートの結果を基に、導入を行った。児童の音声データを用いたり、
途中で何度もアンケート結果を提示したりすることで、児童が授業の最初から最
後まで自分事として考えることができた。また、授業の終盤で行ったアンケート
では、「とても仲のよい友だちにダメだと言えるか否か」を尋ねた。手を挙げて
答えるアンケートでは、ほとんどの児童が「良い」方を選ぶ。しかし、匿名のア
ンケートだからこそ、児童の本当の葛藤を垣間見ることができたように思う。

今回、教材文に入り込んでしまい一般化をすることが難しかった。本時の授業
を通して日常生活に絡めながら一般化していくことの重要性を再認識した。



1 本授業におけるポイント

- 職場体験などの身近な体験活動をあげることで、適切な職業観と勤労観を育て、自己の幸福とともに公共の福祉に努めようとする大切さを実感できるようにする。
- 地域の方を招き、地域行事へ中学生が参加することに対する期待や、経験に基づいた主体的に生きることのよさについて伝えてもらう。

2 授業の実際

1 主題・教材名 働くことの尊さ「役に立つことができるかな」(日本文教出版)

2 ねらい

社会に存在する職業それぞれの尊さや意義を理解し、将来、働くことで社会に貢献しようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 職場体験はどのような場所で体験するべきかを考える。

教 師：職場体験ではどのようなところで経験することが大切だと思いますか？

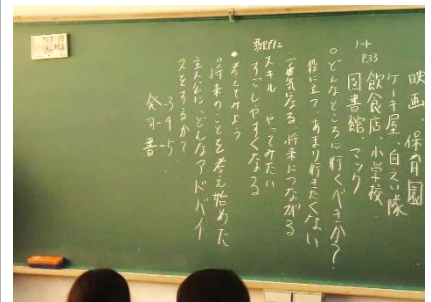
生徒A：自分の将来に役立ちそうなところで働く。

生徒B：楽しそうな場所やよく知っている職業で経験したい。

地 域：普段体験できないところや逆に自分の将来体験できない場所に行くのはどうだろうか？

生徒C：体験できない場所で経験するとより自分にあった職業やその仕事のよさが分かるかもしれない。

生徒D：自分の知っている職業の方が安心だと思う。



○ 指導上の留意点・支援等

数名の生徒の意見を発表に加えて、地域の方々の考えも聞くことで、興味をもって他者の意見に耳を傾ける雰囲気づくりをする。

(2) 展開 将来について悩んでいる時、どんなアドバイスをするかを考える。

教 師：主人公が将来について悩んでいる場面であなたならどんなアドバイスをしますか？

生徒A：自分がなりたいものをじっくり考えることが必要だと思う。

生徒B：時間はまだあるから焦らずゆっくり考えることが大切だと思う。

生徒C：やりがいのある仕事がいいと思うから、今できることをして見つけていくといいと思う。



○ 指導上の留意点・支援等

消防士の体験やできごとから、働くことで社会貢献することへの価値を感じた「僕」を通して、仕事の意義について深く考えられるようにしたい。また、相手のことを考えた懸命な仕事が喜びや誇りを生み、充実した生き方につながることに触れたい。

(3) 終末 職業を選択するときに大切にしていきたいことを考える。

教 師：職業を選択するときにどんなことを大切にしていきたいですか。

生徒A：自分の成長につながるような職業を見つきたい。

生徒B：自分のことだけでなく多くの人に役に立つことができるようにしていきたい。

地 域：小学生の頃と比べて、中学生になると深く考えていることがよく分かりました。今からいろんな経験や体験を通して職業選択をしてほしいと思う。これからも将来についてより考えてほしい。

○ 指導上の留意点・支援等

将来に目を向け、仕事の意義についてどのように考えたのかをワークシートに記入する。また、他者の意見に耳を傾け、グループや地域の方々と意見を伝え合うことで、自分の意見との違いについて考えるとともに自分の考えをさらに深められるようにしたい。

3 評価について

○話合いの中でお互いの意見を伝えあっているかを見取る。

○勤労の尊さを重んじる生き方をもとに、社会における自らの役割や将来の生き方に関して発言や記述があったかを見取り、道徳的価値の理解を深められたかについて評価を行う。

4 実践を振り返って

グループで共有した個人の考えを職場体験などの体験活動を生かして、働くことについての理解を深め、適切な職業観と勤労観を育てていけるようにしたい。

今回は地域の方に授業へ参加していただいたことで、世代の異なる方の考え方や経験を聞き、考えを深めることができた。また、生徒が地域行事などに必要とされていることも認識できた。道徳の授業での地域の方との交流は3年目であるが、小学校の道徳授業でも取り入れているため、生徒たちも気軽に話合いに参加することができており、今後も連携して生徒の成長を支えていきたい。



1 本授業におけるポイント

- 児童が自由に発言できる雰囲気づくりを大切にするとともに、児童の発言に問い返したり発言の類似点や相違点を確認したりすることで、学びを深めることができるようにする。
- ICT を利活用した「心の数直線」を通して話し合うことで、様々な思いを表現したり感じたりすることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 かたよらない態度で「良太のはんだん」（光文書院）

2 ねらい

最後に3人が笑顔でうなずき合うことができた理由について考えたり、心の数直線で正しい判断をすることの難しさについて話し合ったりすることを通して、みんなで何かを取り組むときに周りに目を向けて正しい行動をとろうとする道徳的態度を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 クラスで取り組むときに大切なことを考える。

教 師：みんな遊びや体育の授業で気を付けていること、大切だと思うことは何ですか？
 児童A：どんなに苦手でも一生懸命取り組むこと。
 児童B：チームで声を掛け合って協力すること。
 児童C：みんなが楽しめるように周りを見ること。

○ 指導上の留意点・支援等

これまでの学校生活を想起し、自分の行動を振り返ることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。

（2）展開 正しい判断をすることの大切さと難しさについて話し合う。

教 師：1回目と2回目の良太の判断は何が違いますか？
 児童A：1回目はあゆ美も良太もモヤモヤな気持ちが残ったが、2回目では誰も嫌な気持ちになっていないこと。
 児童B：正しい判断をするためには、みんなの気持ちを考えることが大切。
 教 師：もし3回目の判断があって、その時に光一から「オレ達、親友だろ？」と言われたら、あなたは正しい判断をすることができますか？心の数直線を使って表しましょう。」
 児童C：できる。みんなで楽しむことが大切だから。
 児童D：正しい判断をしたいが、できるかは分からない。



※正しい判断ができる：100

できない：0

○ 指導上の留意点・支援等

ICT を利活用した「心の数直線」を通して、互いの意見を比較しやすくし、話し合いが活発に行えるようにする。また、「誰に対しても分け隔てなく接することが大切」ということで終わらず、ゆさぶり発問をし、心情を心の数直線で表すことで、「できる、できない」の正しい判断や言い切ることの難しさについて考えることができる。

(3) 終末 学習を振り返り、これからの自分について考える。

教師：学習を通して考えたこと、これから頑張りたいことを振り返りとして書きましょう。

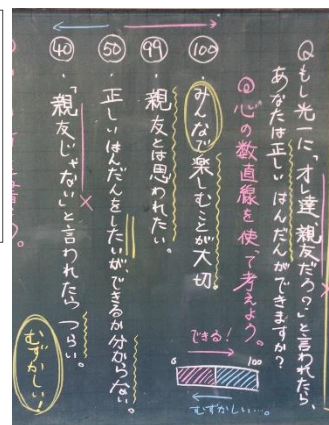
児童A：何かを判断するときには、みんなが楽しく思えるように周りを見ていようと思った。

児童B：「親友じゃない」と言われても本当のことを言える人間になりたい。

児童C：みんなが楽しめるような判断がしたい。

○ 指導上の留意点・支援等

これからの学校生活に生かそうとする意欲を高めさせるために、クラスで意見交換をしたり発表したりする。



3 評価について

○ 評価の対象

発言や振り返りの記述

○ 評価の視点

心の数直線を用いて、自分の体験や経験をもとに登場人物の気持ちを捉えながら、正しい判断をすることの大切さや難しさについて考え、話し合っていたか。

4 実践を振り返って

○ 成果

- ICT を利活用した「心の数直線」を通して、互いの意見を比較しやすくなり、話し合いを活発に行うことができた。
- 「誰に対しても分け隔てなく接することが大切」で終わらず、ゆさぶり発問をすることで、正しい判断をすることの難しさについて考え、話し合うことができた。

○ 課題

- 内容に軽重をつけ、授業後半の発表や意見交換にもう少し時間を設けられたらよかった。
- ゆさぶり発問と心の数直線で正しい判断をすることの難しさについて考えさせたかったが、「できない」と答える児童がやや少なかったため、児童の発言に対する切り返しの発問を準備できたらよかった。

～親切、思いやり～

下関市立文関小学校

1 本授業におけるポイント

- 導入やまとめで事前アンケートを活用し、親切にされた経験、親切にした経験を想起させ、学習課題と自分の生活を結び付けさせる。
- 役割演技を通して、意地悪をしたときは自分だけがよい気持ちになり、相手は嫌な気持ちになること、親切にしてもらったときは、相手も自分もうれしく、ずっとよい気持ちになることを捉えさせる。
- おおかみがうさぎに意地悪をした時と親切にした時の「よい気持ち」の違いに着目させるため、両者を対比させる発問や板書の構成、表情のイラスト等を工夫して提示する。

2 授業の実際

1 主題・教材名 親切にすると「はしの うえの おおかみ」（日本文教出版）

2 ねらい

意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがよいことに気付き、身近にいる人に進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 親切にすると相手と自分がどんな気持ちになるかを考える。

教 師：お友達に優しくしてもらったことはありますか。

児童A：鉛筆を拾ってもらった。

児童B：ボールを譲ってもらった。

しんせつにしたときのきもちをかんがえよう。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 事前アンケートをもとに、友達に優しくされた経験を想起させ、優しくされるとうれしくなることを確かめさせる。
- ・ 問題意識を持たせるために、親切にできていないこともあるということを捉えさせる。

(2) 展開 はしのうえのおおかみを読み、親切にするよさについて考える。

教 師：うさぎ達を追い払ったおおかみはどんな気持ちだったでしょう。（ペア→全体）

児童A：楽しい。

児童B：もっとやろう。

教 師：くまの後ろ姿を見ているおおかみは、くまのことをどう思っているでしょう。

児童A：優しい

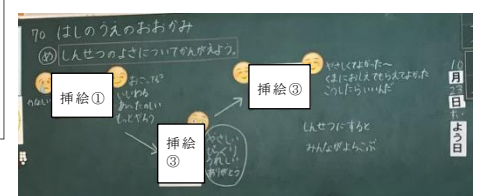
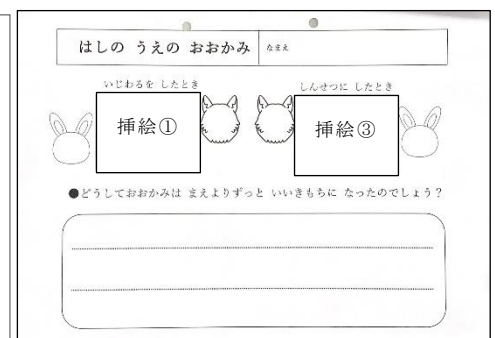
児童B：嬉しい

児童C：ありがとう

教 師：うさぎに親切にしたおおかみはどんな気持ちだったでしょう。（ペア→全体）

児童A：くまみたいに優しくなれた。

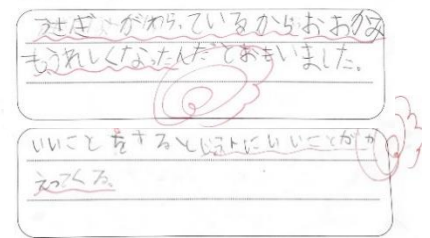
児童B：喜んでくれて嬉しい。



教師：どうしておおかみは前よりずっとよい気持ちになったのでしょうか？（全体→ペア→個人→全体）

児童A：うさぎが笑顔だから。

児童B：よいことをすればよいことが返ってくるから。



○ 指導上の留意点・支援等

- ・ うさぎに意地悪をするおおかみの挿絵と、うさぎに親切にするおおかみの挿絵を電子黒板で提示し、おおかみが優しくなったきっかけに着目させてから範読をすることで、どの児童も教材の内容をつかみやすくする。
- ・ ペアでおおかみとうさぎの役割演技をさせたり、様々な表情のイラストからおおかみとうさぎに当てはまるものを選ばせたりして、両者の気持ちや、おおかみの気持ちの変化を感じ取らせる。
- ・ 温かい心で親切にする心地よさを感じさせるために、意地悪をした時の気持ちと親切にした時の気持ちを比較し、親切にした時の方がずっとよい気持ちになるということを押さえる。

（３）終末 本時で明らかにした親切の価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。

教師：くまやおおかみのように親切にできた時、どんな気持ちでしたか？

児童A：よい気持ち

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 事前アンケートをもとに、自分の親切に関わる経験とその時の気持ちを振り返るとともに、価値の一般化を図り、自分の生活と結び付けさせる。

3 評価について

○意地悪するよりも親切にするほうがずっとよい気持ちになるということを感じ取っているか。（道徳ノート・発言）

4 実践を振り返って

○ 成果

- ・ 役割演技や表情のイラストを用いることは、子供たちが話の中に入り込み、登場人物の気持ちを考えるのに有効であった。
- ・ あらすじを伝えてから動画（二次元コード）を観ることで、どの子供も教材の内容を理解できた。
- ・ 中心発問までの活動と中心発問が結びついていたため、子供たちが親切のよさを意地悪から得られる気持ちと対比して考えることができた。

○ 課題

- ・ 中心発問「どうしておおかみは前よりずっとよい気持ちになったのでしょうか？」に対して、「くまにやさしくしてもらった」と、おおかみが親切にした動機を書く児童がいた。「くまのまねをしたおおかみは、どうして前よりずっとよい気持ちになったのでしょうか？」と聞く方がより焦点化された。
- ・ おおかみやうさぎのお面等があると、もっと子供たちが教材の内容に入り込めた。
- ・ おおかみの表情→おおかみの気持ち、うさぎの表情→うさぎの気持ち、と聞く方が混乱せずに考えることができたと思われる。

～よりよい学校生活、集団生活の充実～

長門市立日置小学校

1 本授業におけるポイント

- 導入で、委員会活動についてのアンケート結果に着目する場面を設定し、自分との関わりで考えさせたい。
- 「頑張れない気持ち」と「頑張りたい気持ち」を構造的に板書することで、えり子の葛藤しながらも変化していく心情を理解させたい。
- 終末で、学校の職員や地域の人と1学期の振り返りをするすることで、自分の役割を自覚し、積極的に取り組んでいる様子を想起させ、実践意欲を高めるようにしたい。

2 授業の実際

1 主題・教材名 集団の一員として「森の絵」（日本文教出版）

2 ねらい

集団のメンバーにはさまざまな役割があり、一人ひとりが一員としての自覚をもってやり遂げることで集団が成り立つことを理解し、学校や学級などの集団の一員として行動しようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 アンケート結果を見て気付いたことについて話し合い、課題意識をもつ。

教 師：アンケート結果からどんなことに気付きますか。

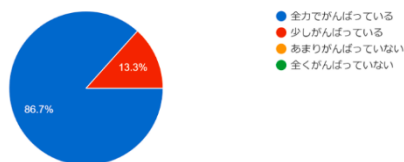
児童A：仕事をやっている人とやっていない人がいるね。

児童B：やらないといけないと分かっているけどもやっていない人もいるね。

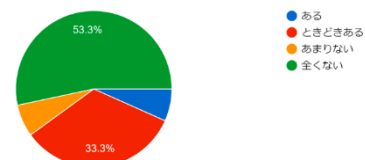
○ 指導上の留意点・支援等

アンケートの結果を見ることで、自分のことを振り返らせ、ねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。

④委員会活動ががんばっていますか。
15件の回答



⑧委員会活動をやりたくないと思ったことはありますか。
15件の回答



（2）展開 教材「森の絵」を読んで、主人公の心情を中心に話し合う。

教 師：えり子は最初どんな気持ちで取り組んでいましたか。

児童A：女王役がやりたかった。

児童B：めぐみさんは上手だけど、やっぱり納得できない。

児童C：力が入らないな。

児童D：やりたくないな。

○ 指導上の留意点・支援等

女王役をやりたかったえり子が、めぐみに役を譲ったときの気持ちに寄り

添わせることで、道具係の仕事にやる気が出ず、適当になってしまうえり子の気持ちに共感させる。最初と最後のえり子の心の中を対比させ板書することで、役割は変わっていないが、えり子の気持ちが変わったことに気付かせる。

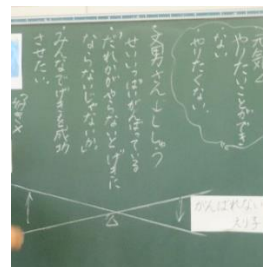
教師：えり子の気持ちが大きく変わったのは、どんなことに気付いたからでしょう。

児童A：文男の「誰かがやらないと劇にならないじゃないか」の言葉で、文男の頑張りに気付いたから。

児童B：みんなで最高の劇にしたい。

児童C：文男が苦手な刺繍を頑張っている姿を見て、自分もこれじゃいけないと思った。

児童D：周りの友達も自分の役割をきちんと頑張っている。



○ 指導上の留意点・支援等

えり子の道具係に対する姿勢と文男の刺繍を頑張っている姿とを比較させることで、えり子の葛藤する心情を考えさせる。

「文男だって苦手な刺繍をするのは嫌だったのではないかと問い返すことで、苦手なことでも一生懸命取り組んでいる文男の気持ちに気付かせる。

(3) 終末 自分との関わりで振り返る。

教師：自分の役割や責任を果たしていくためには、どんな気持ちが必要なのでしょう。

児童A：同じ目標に向かって頑張ることが大事だな。

児童B：一人ひとりの役割によい悪いはない。

児童C：一人ひとりの役割が大切なんだな。それが集まって集団ができています。

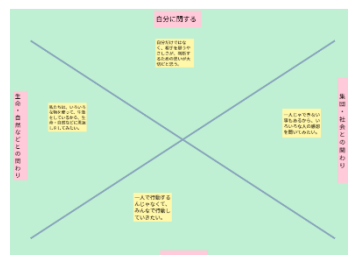
児童D：やりたくないと思っても、それぞれが頑張ることによってみんなの力になる。



○ 指導上の留意点・支援等

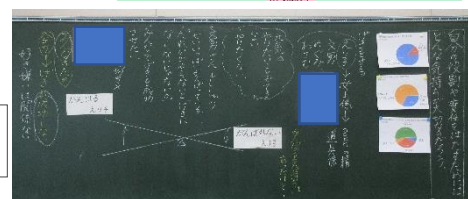
自分の役割を自覚し、積極的に取り組んでいる様子を想起させ、実践意欲を高めるようにする。

出た意見の中から1番大切だなどと思うことを選び、記録・蓄積させることで、今後の自分に生かしていけるようにする。



3 評価について

- 自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする姿が見られたか。（見取り、ノート等）



4 実践を振り返って

導入でアンケートを使うことで、自分との関わりについて考えさせることができた。高学年として委員会活動や学校行事等で大切な役割を任される機会が増えた。しかし、仕方なく取り組んだり人任せにしたりする児童も見られる。えり子の心情の変化を捉えることで、集団における役割や責任の大切さを自覚した。終末では、普段の活動時の写真を見たり、参観した教員と学校行事での活動の様子を振り返ったりすることで、主体的に責任を果たそうとする意欲を高めることができた。児童からは「どの役割も大切だから、一生懸命しよう。」「自分がやったことは自分に返ってくるから頑張ろう。」等の振り返りがあった。日常生活の中で考えるだけでなく、行動にうつしてほしい。

～よりよく生きる喜び～

長門市立菱海中学校

1 本授業におけるポイント

- 保護者や地域の方々の授業参加により、異なる価値観に触れることができるため、生徒たちが多様な視点を学ぶことができる。
- ICTを活用することで、発表時には、議論した内容を“見える化”させながら理由や思いを伝えることができる。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 人間としての誇りに満ちた生き方
「二度とない人生だから」（廣済堂あかつき）

2 ねらい

「二度とない人生だから」の詩に込められた思いを受け止め、自己の生き方を見つめる学習を通して、自己の良心に従い、気高く生きることによって、よりよい人生を切り拓いていく道徳的実践意欲を培う。

3 学習指導過程

(1) 導入 資料の範読とめあての確認を行う

教 師：自分の人生を豊かにしてくれるものはなんだろうか。 生徒A：スマホ！ 生徒B：お金！ 地域の方：経験！
--

- 指導上の留意点・支援等
 - ・自由に想起させ、思いついたことを箇条書きで書かせる。
 - ・地域の方も加わったグループによる話し合いが円滑に進むように、自己紹介を兼ねて全員が発表する場を設定する。

(2) 展開 詩に込められた思いを受け、自分なりの言葉で一連ほど詩をつくる

教 師：「二度とない人生だから」のあとに、自分ならどのような言葉を入れるだろう。 生徒A：後悔のない人生にしよう。 生徒B：感謝の気持ちを伝えよう。 地域の方：自分に正直に生き、できることを一生懸命やろう。でもちょっと難しいかも。

Team 1 『二度とない人生だから...』

- ・夢を叶えるために努力しよう
- ・やりがいを持っていきこう
- ・やりたいことをしよう
- ・自分がやりたいと思ったこと、なんでもやろう

- 指導上の留意点・支援等
 - ・時間配分については、個人で考える時間（5分）、グループでの発表（5分）、全体への発表（5分）とする。
 - ・個人で考える時間では、例示し、考えを表現することが苦手な生徒を支援する。

- ・発表時には、議論した内容を視覚的に示すため、ICT（Google スライド）を活用して理由や思いを伝えるよう指示する。

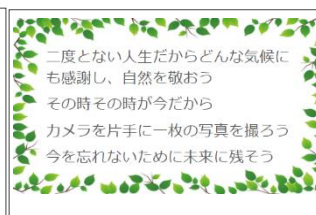
（３）終末 自分事としてとらえ、まとめを行う

教 師：「よりよく生きるとはどういうことか」をテーマに感想を記入してください。

生徒A：これからも、自分らしくやりたいことに向かって努力していこう。

生徒B：大事な人に感謝の気持ちを何度も伝えたい。

生徒C：嫌なことやプレッシャーから逃げないように頑張る。



○ 指導上の留意点・支援等

- ・学習を振り返り、地域の方と対話をさせる。
- ・中学生と地域の方と、それぞれの立場で、よりよく生きることについて考え、グループで意見交換をさせる。

3 評価について

- 地域の方との対話を通して、自分自身の生き方を見つめる発言や記述があったかを、授業中の様子やワークシートの記述などから見取る。

●授業の振り返り

自分の考えを	もてた	①	-----	もてなかった
他の人の意見を聞いて 新しく気づいたことが	あった	②	-----	なかった
自分の生活や生き方を	考えた	③	-----	考えなかった

よりよく生きるとは、自分自身とまわりの人、人生を大切に
生きることだと思います。今、私が「ア」することは、まわ
りの人に「ありがとう」と感謝伝えることだと思うので、し
っかり伝えていきたいです。

みました
3ミ

4 実践を振り返って

保護者や地域の方々に参加していただく地域道德の授業を実施することにより、以下に示す成果と課題が見られた。

【成果】

- ・様々な人生経験のある地域の方々との対話を通して、同級生との話合いでは触れられない価値観を学ぶことができた。
- ・地域の方々の経験や価値観を共有することで、地域の方々が生徒たちにとってのロールモデルとなった。
- ・生徒は地域の方々との関わりを通して、自分たちが地域社会の一員であることを実感し、地域に対する愛着を深めることができた。

【課題】

- ・授業に参加していただく保護者や地域の方々は学校運営協議会委員やPTA 役員などの関係者が中心になっているため、顔ぶれが限られている。異なる価値観に触れさせるために、公民館などと連携し、地域ぐるみで幅広く人材確保をしていく必要がある。

～親切、思いやり～

岩国市立岩国小学校

1 本授業におけるポイント

- 導入と終末場面で事前アンケートの結果を提示することで、多面的・多角的な思考を促し、自己を見つめ、自己の変容に気付けるようにした。
- 役割演技を取り入れ、登場人物が置かれた状況を体験することで、登場人物の複雑な気持ちを自分ごととして捉え、考えを深めていくことができるようにした。

2 授業の実際

1 主題・教材名 親切な思い「くずれ落ちたダンボール箱」（日本文教出版）

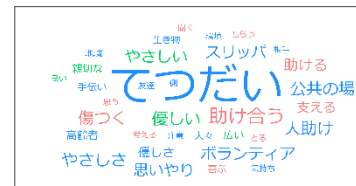
2 ねらい

相手に伝えずに親切にした理由について話し合うことを通して、親切・思いやりは相手のためを思い、できることをしようとする心から生まれることに気付く、相手の気持ちや立場を考えて親身になって行動しようとする態度を培う。

3 学習指導過程

（1）導入 親切や思いやりとはどんなものなのか、考えたことを共有する。

教師：親切や思いやりとはどんなものだと思いますか。
 児童A：助け合うこと。
 児童B：人に優しくすること。
 児童C：相手を思う気持ち。



- 指導上の留意点・支援等

事前に Forms を活用して「親切や思いやりとはどんなものか」についてアンケートをとった結果を全体で共有し、短時間で全員が学習課題を把握できるようにする。アンケート結果のキーワードを AI によるテキストマイニングを使用して提示し、終末場面での自己の変容の気づきにつなげられるようにする。

（2）展開 教材を読んで、登場人物の気持ちや行動について考える。

教師：「わたし」はなぜ自分がやったわけではないのに直してあげたのでしょうか。
 児童D：困っていたおばあさんを見捨てられないから。
 児童E：男の子が迷子になってはいけないから。
 教師：誰も手伝わない中、ダンボール箱を片付けたことでどんなよいことがありましたか。
 児童F：おばあさんにお礼を言ってもらえた。
 児童G：男の子が迷子にならなかった。

- 指導上の留意点・支援等

登場人物の複雑な気持ちを考えさせるため、学校に手紙が来る前の場面まで範読する。親切にした時の気持ちだけではなく、その行動によってどんなよいことがあったのかを問うことによって、親切にしにくい状況でも相手の立場を考えて行動することのよさについて考えられるようにする。

教 師：店員に注意された時に、二人はどんなことを考えたでしょう。

児童H：いいことをしたのに、怒られる理由が分からない。

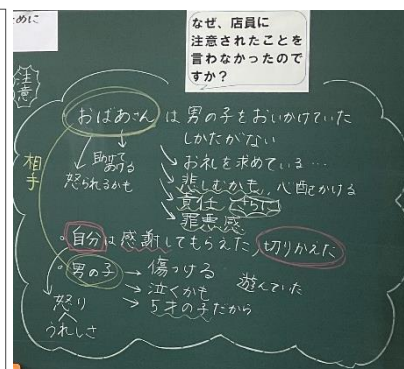
児童I：決めつけられて悲しい。

教 師：店員に注意を受けたことをおばあさんに伝えなかったのはなぜですか。「いいえ、いいんです。」と言った時の気持ちを考えましょう。

児童J：おばあさんがさらに責任を感じてしまうかも。

児童K：男の子はまだ5才だから仕方ない。

児童L：おばあさんに感謝してもらえたから、気持ちを切り替えた。



○ 指導上の留意点・支援等

おばあさんに店員から注意されたことを言わずに「いいえ、いいんです。」と言って立ち去った時の気持ちを、インタビュー形式の役割演技を取り入れて考えさせることで、親切を誤解されても、相手の立場に立った思いやりの心を貫く心情を高められるようにする。また、後半部分を範読し、「手紙がなかったとしても変わらないものは何か？」と問い返し、誰かに認められることが大切なのではなく、相手を思いやって行動することのすばらしさを捉えられるようにする。

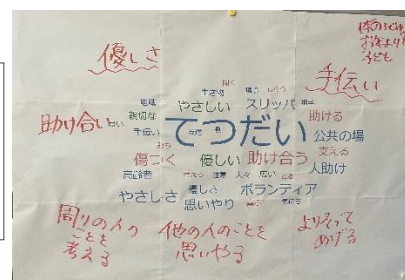
(3) 終末 学んだことを振り返り、感想を共有する。

教 師：これから深い思いやりの心をもって親切にするために、どんな考えを大切にしたいですか。

児童O：周りの人のことを考えて、優しく助けてあげる。

児童P：他の人の気持ちを考えて行動することが大切。

児童Q：困っている人の気持ちに寄り添ってあげる。



○ 指導上の留意点・支援等

深い思いやりの心をもって親切にするために大切にしたい考えを Teams で回答させる。周りにどう思われようとも、相手の気持ちや立場を考えてできることをしようとする思いやりの心について共有し、導入で提示したアンケート結果にキーワードを追加していく。

3 評価について

- 役割演技等を通して意見を交流する中で、登場人物の立場に立って心情を考え、親切的な行動の理由について考えようとしていたか。〔自分ごと〕（発言・ワークシート）
- 友達の意見を聞きながら、多面的に、親切・思いやりについて考えようとしていたか。〔多面的・多角的〕（ワークシート）

4 実践を振り返って

導入と終末において ICT を活用して意見を集約することで、多様な考えがあることに気づき、新しい自分の考えとして取り入れることに繋がったように思う。インタビュー形式の役割演技にも意欲的に取り組んでいた。しかし、終末の発問が複雑だったため、答え方に困る児童が見られた。「深い思いやりとは何か。」などのシンプルな発問の方が、より道徳的価値に迫ることができたのではないかと考える。

～生命の尊さ～

岩国市立平田小学校

1 本授業におけるポイント

- 「家庭や地域社会との連携」を図るため、地域の交通安全ボランティアの方や職場体験に来ていた中学生に授業に参加してもらい、各班に一人ずつ地域の方に入っていていただいてグループで話し合う「話し合いの工夫」を取り入れた。
- 児童が道徳的価値を自分ごととして考えることができるように、児童の思考に沿った発問（導入部）、考える必然性のある発問（展開部）、物事を多面的・多角的に考える発問（終末部）を意識した「発問の工夫」を取り入れた。

2 授業の実際

1 主題・教材名 たいせつな いのち 「やくそく」（日本文教出版）

2 ねらい

自分の命は自分だけのものではなく、多くの人の思いを受けていることに気づき、かけがえのない命を大切にしていこうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 本時のめあてを確認する。

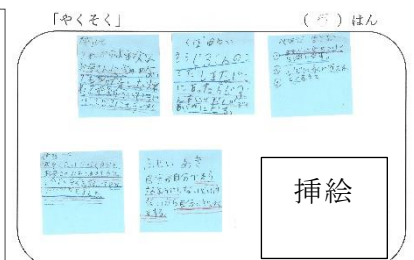
教 師：みんなに問題を出します。一人に一つずつあるものです。目には見えないけれど、とても大切なものです。なあんだ？
 児童A：やくそく！
 児童B：のう！
 児童C：心！
 児童D：いのち！
 教 師：どれも大切なものだね。今日はこの中でも、命について勉強をしていきます。今日のめあては、「自分の命について考えよう」です。

○ 指導上の留意点・支援等

地域の方との授業に緊張している児童も多いので、導入にクイズを取り入れ、「同じ班の人と小さい声で相談していいよ。」と声を掛けることで、気持ちをほぐすようにした。またこの後、命の始まりの大きさを実感させるために小さい穴の開いたカードを配付した。あえて少ない枚数のカードを配付し、一枚のカードを数人で覗き込ませることで、自然と距離が近づき、会話につながるようにした。

（2）展開 地域の方や班の友達と考えを交流する。

教 師：わたしは、どうしてお家の人や先生ではなく、自分と約束をしたのかな？
 児童E：自分で自分の約束を守って自分の命を守るため。
 児童F：もう自分のことだし、事故に遭ったら自分も嫌だし家族も悲しむから。
 中学生：いろんな人に迷惑や心配をかけたから。
 地域の方：事故に遭ったのは自分の不注意なので、家族にすごく心配をかけてしまったことをとても反省したから。

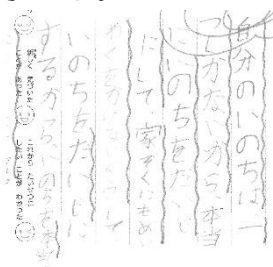


○ 指導上の留意点・支援等

各班で行う意見交流の時間を20分くらい取り、よい交流にするために以下の手順に進めた。①自分の意見を付箋に書く。②付箋に書いたことを一人ずつ声に出して読んで、班の人に伝える。③付箋を回して、自分と同じ意見に赤線、いいね！なるほどな！と思った意見に青線を引く。④全員の付箋を1枚のワークシートに貼り、お互いにどこに線を引いたか確認する。⑤全体場で、紹介したい班の人の意見や自分の意見を発表する。

(3) 終末 本時の学習を振り返り、これからの自分について考える。

教師：自分の命について分かったことや考えたことを書きましょう。
児童G：急いだら事故に遭うから、命のことを考えて帰る。
児童H：自分の命は一つしかないし、大事な命だから、友達の命も大切に
地域の方：心配するから危ないことはしない。自分のためにも、友
達のためにも、家族のためにも。



○ 指導上の留意点・支援等

めあてについて振り返らせることで、「家への帰り道で気をつけること」という視点だけでなく、「一つしかない大切な命」という視点からも考えることができるようにした。

3 評価について

- 自分の命が多くの人々の思いに支えられ、毎日を過ごしていることについて考えようとしているか。（発言、付箋、道徳ノート）
- 命の大切さについて、深く考えようとしているか。（発言、付箋、道徳ノート）

4 実践を振り返って

今回の実践では、地域の方々に児童と一緒に授業を受け、話し合い、発表をしてもらった。授業の中で、安全ボランティアをされて



いて、危険だと思った児童の姿を紹介していただいたり、どんな思いでボランティアをされているのかお話ししていただいたりすることで、多角的な考えに児童を触れさせることができた。また、中学生が児童のことを一生懸命考えて、恥ずかしそうに発表する姿、地域の方がどんなことを言うのだろうと真剣に話を聞こうとする児童の姿、どれもが心に残る姿となった。一つのめあてに向かって皆で考えていく時間を共有することで、地域とのつながりを感じながら心を豊かに成長させていくことができるのが、地域の方を招いて行う道徳科のよさだと思う。「勉強がこんなに楽しいなら、明日も来たいと思います。」と言われた地域の方がおられ、道徳科の授業も学校と地域をつなぐきっかけになることを実感した。

～思いやり、感謝～

岩国市立麻里布中学校

1 本授業におけるポイント

- 二つの場面での登場人物の行為と心情を比較させることで、思いやりの心をもって接することの大切さについて深く考えられるようにする。
- 生徒自らの経験と教材の場面を重ね合わせながら考えることができるように、考える必然性、切実感のある発問を設定する。

2 授業の実際

1 主題・教材名 本当の思いやり「電車の中で」（日本文教出版）

2 ねらい

行動に込められた「思い」の大切さに気付き、他者の立場を尊重しながら、思いやりの心をもって人に接しようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 自らの経験を振り返る。

教 師：電車やバスに乗ったとき、自分だったらどうするか。
生徒A：席が空いていたら座る。
生徒B：高齢者などに譲る必要があれば、そのときに立つ。
生徒C：立っていても邪魔になるかもしれないので、席に座る。
生徒D：譲る勇気はないので、最初から立っておく。
生徒E：席を譲ったときに、嫌な反応をされたことがあるので、最初から立っておく。

○ 指導上の留意点・支援等

実際に電車やバスに乗ったときの自分の経験を思い出すことによって、席を譲る行為について考えさせる。自分の取る行動の理由まで考えさせることで、行動に至るまでの「思い」に意識を向けさせる。

（2）展開 教材「電車の中で」を読み、二つの場面での登場人物の行為と心情を比較しながら、席を譲る行為について考える。

教 師：電車の中で、「座っていたが席を譲る」行為と「最初から立っていて結果的に譲る」行為は同じだろうか。
生徒F：席に座った人が感謝をしているなら、どちらも同じ。
生徒G：最終的に人の役に立っているから、同じだ。
生徒H：「面倒なことになるのが嫌だから座らない」と自分のために立っていたタケシと、相手のために席を譲った女子二人の行為は違う。
生徒I：最初から立っているのも、必要な人が座りやすくなるようになど、相手のことを考えて席を空けておいた場合なら、席を譲るのと同じだと思う。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・女子二人の行為は、席を譲った相手と心の通い合いがあり、お互いが幸せになれる行為だったのに対して、タケシ達の行為は、自分たちが面倒なことになるのが嫌で立っていたが感謝され、気まずさと後悔の残る行為だったことに気付かせる。

- ・同じ感謝される結果となった行為だが、その行為に込められた思いの違いに注目させることで、本当の思いやりについて考えを深めさせる。
- ・意見交換を通して様々な意見に触れ、自らの考えを広げられるようにする。

(3) 終末 「本当の思いやり」とは何か考える

教師：「本当の思いやり」とは、何だろう。

生徒J：自分から親切にしたいという思い。

生徒K：自分の利益を優先するのではなく、相手のためになることを相手の立場になって考え行動すること。

生徒L：座っていたが席を譲るという行為も、気を遣わせたくないから、はじめから立っておくという行為も、相手のことを思った親切心からの行為であれば、どちらも本当の思いやりだと思う。

生徒M：何かをしてあげることだけでなく、何もしない（そっとしておく）思いやりもあると思う。相手のことを真剣に考えてやったことなら、本当の思いやりだと言える。

○ 指導上の留意点・支援等

行為が大切なのではなく、その行為に至った心の在り方が大切であり、他者の立場を尊重しながら、自分のためではなく、相手のことを考え行動することの大切さに気付かせる。

【生徒の振り返りより】

座っていたが席を譲るという行為も、気を遣わせたくないから、はじめから立っておくという行為も、親切心からの行為であれば、どちらも本当の思いやりと言えると思う。しかし、前者の行為で「譲る必要なくても座りたければ、でも世間的には良くない」と考えていたり、後者の行為で「面倒くさいから立っておく」と考えていたり、違う。

3 評価について

- お互いが他者の立場を尊重することで、心の通い合いが生まれることに気づき、「思いやりの心をもって人に接していきたい。」ということについて考えているか、授業中の発言やノートの記述から見取る。
- 様々な意見交換を通して、「本当の思いやりとは何か」について自分の考えを深めていたか、振り返りの記述から見取る。

4 実践を振り返って

電車やバスの中で高齢者等に席を譲るかどうかを考えることは、多くの生徒が日常生活の中で遭遇したことがある（これから遭遇する）状況である。実際に席を譲って感謝された経験のある生徒、席を譲ろうとすると断られた生徒もいるなど、身近な問題として自分自身と重ね合わせて考えやすい教材であった。

「座っていたが席を譲る」行為と「最初から立っていて結果的に譲る」行為は同じかを考える場面では、どんな行為をとるかではなく、「その行為に込められた思いが大切である」という意見が出たところから、話し合いを深めることができた。

今回の授業を通して、思いやりをもって他者と接することは、相手も自分もお互いにとってよいことであると再認識した生徒が多いのではないと思う。日常生活の中で、他者とよりよい関係を築けるように継続して指導していきたい。

～希望と勇気、努力と強い意志～

柳井市立柳井小学校

1 本授業におけるポイント

- 「なりたい自分」について問うことで、本時の学習を自分ごととして考えることができるようにする。
- 児童が自由に意見を出し合える雰囲気作りを大切にするとともに、発言の類似点や相違点を確認することで、学びを深めることができるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 なりたい自分に「心をつなぐ音色ーピアニスト辻井伸行」
(東京書籍)

2 ねらい

これから先どんな自分になりたいのか、またそのためにはどんな努力をする
とよいか考え、困難があっても希望と勇気をもって、あきらめずに努力しようと
する心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 なりたい自分について考える。

教 師：どんな自分になりたいですか。
児童A：臨機応変に対応できる自分。
児童B：みんなから信頼される自分。
児童C：粘り強く、ポジティブで元気な自分。
児童D：将来の夢を叶えている自分。

○ 指導上の留意点・支援等

導入では、それぞれの児童が、これから先どんな自分になっていきたいか具
体的な姿を考えるようにした。将来の夢がまだ決まっていない児童は、内面的
なことでもよいとし、自由に考えられるようにした。

(2) 展開 本文を読んで話し合う。

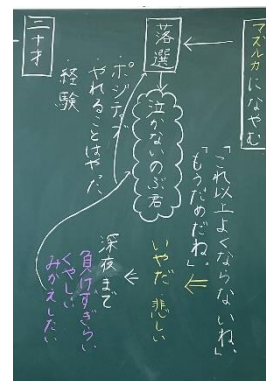
教 師：もしも、先生から「もうだめだね。」とみんなが言われたら、どう思う？
児童A：悔しいし、悲しい。
児童B：こんなに頑張っているのに「だめ。」って言われると腹が立つかも。

教 師：「もうだめだね。」って言われたのに、どうしてのぶ君は、深夜まで一人でピアノ
に向かったのだろう。
児童C：先生を見返したいし、あきらめたくないから。
児童D：きつとのぶ君は、負けず嫌いで悔しいと思っていたから頑張ったのだと思う。

教 師：落選してしまっても、のぶ君は一人だけ泣かなかったのはなぜだろう。
児童E：自分ができることはやったから後悔はない。
児童F：努力したことは無駄になったわけではないから、前向きに考えたのだと思う。
児童G：あこがれていたコンクールに出ることがこれからの経験になったと思ったからでは
ないかな。

○ 指導上の留意点・支援等

先生から「もうだめだね。」という言葉が言われたのがもしも自分だったら…と考えることで、全員が自分ごととして考えられるようにした。「だめだね。」と言われてもなお深夜まで練習に励む主人公を通して、目標に向かって努力をし続けることに気付かせるようにした。落選してしまった主人公の気持ちを考えるときには、支えてくれたみんなの涙に含まれた気持ちと主人公の気持ちの違いを押さえ、主人公の心の中を考えられるようにした。



(3) 終末 なりたい自分になるためにこれからできることを考える。

教師：なりたい自分になるためにこれからどう生活していきますか。

児童A：どんなことがあっても、一生懸命に勉強したり、知識を増やしていったりするとなりたい自分になれると思った。

児童B：みんなのためになる行動を大切にしていきたい。

児童C：なりたい自分がたくさんあるから、あきらめず一つずつ心がけて生活していきたい。

○ 指導上の留意点・支援等

どんなことがあってもあきらめず努力し続けることがなりたい自分や夢を叶えるために大切なことであることを共有した。また、導入で考えた「なりたい自分」に近づくために、これからの生活ではどのようなことを意識していくか、目標に向けた具体的な行動や思いを考えるようにした。



3 評価について

なりたい自分に向けて、あきらめず努力することの大切さに気付くことやこれからの生活でどのようなことを大切にしていきたいかということについて考えていたか、児童の発言やノートの記述から評価を行う。

4 実践を振り返って

なりたい自分について考える時間をとることで、今の自分を振り返ったり、将来の夢について考えたりして、自己を見つめることができたが、振り返りの際に、これからの生活に生かしていく具体的な行動や思いを考えにくい児童もいた。そのため、なりたい自分を考える手立てとして、4月に立てた6年生の目標や将来の夢などの中から一つに絞ってもよかったように感じた。

教材文では、先生から「もうだめだね。」と言われたのがもしも、自分だったらどう思うか考え、自分ごととして置き換えることができたため、自分の素直な思いを発言する児童が多く、さまざまな友達同士の意見を聞くことができた。思ったことを自由に発言できる工夫をしていく大切さを実感することができた。そのために一つひとつの発問の工夫をしていきたい。

～生命の尊さ～

柳井市立新庄小学校

1 本授業におけるポイント

- 健康で過ごしているときにはなかなか気付くことができない、生きていることへの喜びや幸せを生活の中から見付け、自分の健康や生命の大切さについて、児童に考えさせたい。そのために、保護者や地域の方々に授業に参加していただき、話し合い活動の際には各班に一人ずつ入っていただくことで、自分たちにはない考えにも触れ、多面的、多角的に考えることができるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 命の大切さ「わたしの見つけた小さな幸せ」（東京書籍）

2 ねらい

突然病気にかかったわたしが「小さな幸せ」をいくつも見付けることができた理由や自分の中の小さな幸せを考えたり話し合ったりすることを通して、健康であることの喜びや幸せを感じ取り、与えられた生命を一生懸命に生きることや生命を大切にしようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（１）導入 今の自分は幸せかどうかを考える。

教 師：今みんなは幸せですか。
 児童A：今、歯が痛いので幸せではない。
 児童B：幸せなときもあるけど、けんかをしたりしたら幸せではない。
 児童C：朝ご飯でパンケーキが出てきたときは幸せ。
 児童D：家族と一緒にいられるから幸せ。

- 指導上の留意点・支援等

「幸せ」を「特別なこと」と考えている児童も多いと考えられるため、日々の生活の中で感じる幸せを想起させ、本時の展開につなげる。

（２）展開

①教材文を読み、話の内容を整理しながら、「わたし」の気持ちを話し合う。

教 師：熱が下がっても、腰の痛みが治らない「わたし」はどんな気持ちでしょうか。
 児童A：病気っていやだな。
 児童B：早く学校に行ってみんなに会いたいな。
 児童C：なんで治らないの？
 教 師：みんなもこんな気持ちになったことある？
 児童D：ひざをけがしたときに、死んでしまうかもと思ったことがある。
 児童E：前に家族みんながコロナになったときに、さみしい気持ちになった。

- 指導上の留意点・支援等

病気になった経験や、そのときの不安な気持ちを思い出させることで、「わたし」の状況を自分ごととして考えることができるようにする。

② 「わたし」が今までに気付かなかった「小さな幸せ」をいくつも見付けられるようになった理由を考え、話し合う。

教師：「わたし」が今までに気付かなかった「小さな幸せ」を見付けられるようになったのはどうしてでしょう。

児童A：病気が治って、命の大切さに気が付いたから。

児童B：病院や家にいて人や花に触れあえなかった。触れあえる幸せを感じたから。

児童C：この花も私みたいに頑張っていることに気が付いたから。

児童D：病気のときにはできなかったことができるようになったから。

○ 指導上の留意点・支援等

班の友達や地域の方と様々な理由を出し合うことで、普段何気なく過ごしている健康な毎日が幸せなことに気付くことができるようにする。

③ 自分にとっての小さな幸せについて考える。

教師：小さな幸せについて考えたことはありますか。自分にとっての小さな幸せをたくさん見付けてみましょう。

児童A：夜ご飯を家族みんなで食べることに。

児童B：よく眠れるとき。

児童C：毎日おいしいごはんを作ってもらえること。

児童D：いつも友達や先生に会えること。それは、お母さんや家族のおかげだと思う。

児童E：けんかしたけど、ごめんねって言って友達と仲良くなれること。

地域A：みんなとこうやって話し合いができること。

地域B：ぐっすり寝て、朝ぱっと目覚めることができること。

○ 指導上の留意点・支援等

「当たり前」だと感じ、目を向けてこなかったことから「小さな幸せ」を見付けさせることで、健康や命の大切さに気が付いたり、自分の周りや生きていることへの感謝の気持ちを実感したりすることができるようにする。

(3) 終末 今日の学習を振り返る。

教師：今日の学習を振り返りましょう。これからどのように過ごしていきたいですか。

児童A：生きていられるのも全て家族のおかげ。いつもありがとうという気持ちになった。これからも感謝していきたい。

児童B：いつも気付いてないだけで、当たり前のことが小さな幸せであり、たくさんあることに気付いた。一日一日大切に過ごしていきたいと思った。

児童C：生きているということはとても幸せなことなのだと分かった。これから小さな幸せをいっぱい見付けていきたい。

3 評価について

○ 健康や命があるからこそ感じられる小さな幸せに気づき、命の大切さを実感しながら自分を見つめているかどうか児童の発言やワークシートの記述からみとる。

4 実践を振り返って

中心発問で「わたし」が「小さな幸せ」を見付けた理由を考えさせたが、幸せに気付いた「わたし」の気持ちや幸せに気付いた「わたし」がこれから心がけようと思ったことなどにすると、児童がもう少し命の大切さや命を大切にしたいとどのように生きていきたいかを深く考えることができたのではないかと感じている。

地域の方に参加していただくことで、児童同士では出ない考えや意見を聞くことができ、児童にとっては貴重な経験ができたと思う。

～生命の尊さ～

柳井市立大畠中学校

1 本授業におけるポイント

- 話合いの工夫として、個人で考え、グループで対話し、全体で発表する。主人公「私」や友達の意見を知ること、自分を振り返り「生命の尊さ」について考えを深めることができる。

2 授業の実際

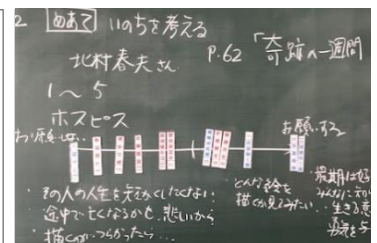
- 1 主題・教材名 いのちを考える 「奇跡の一週間」（東京書籍）
- 2 ねらい

末期癌の患者北村春夫さんの生き方を通して、生命の尊さ（生命の有限性）を理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 生命の有限性について考える。

- 教師：末期癌の患者である北村春夫さんに、あなたはイラストを描いてほしいとお願いしますか、しませんか。理由は？
- 生徒A：その人の人生を短くしたくないから。
- 生徒B：途中で亡くなるかもしれないから、悲しいから。
- 生徒C：どんな絵を描くか見てみたい。
- 生徒D：最期は好きなことをして、みんなに伝えたいから。
- 生徒E：自分が必要だという生きる意味と勇気を与えたいから。

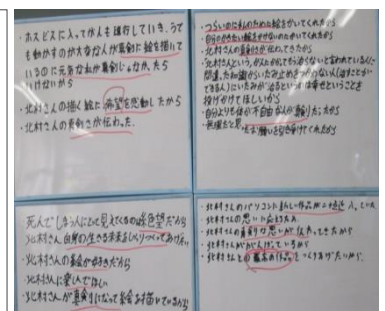


○ 指導上の留意点・支援等

北村さんがホスピスに入院していること、絵を描くのが好きなことを説明し、童話を書きながら、ホスピスでボランティアをしているあなたと仮定する。「お願いする」「お願いしない」を両極端とした心のものさしの自分の心情に最も近い位置にネームプレートをはり、理由を発表する。

（2）展開 「奇跡の一週間」を読んで話し合う。

- 教師：北村さんに出会うまで、「私」はどのような気持ちで患者に接していただろう。
- 生徒A：治らない。長い時間生きられない。
- 生徒B：かわいそうな人。一日を大切にしないといけない。
- 生徒C：間もなく死んでいくので、亡くなった時悲しくなるから親しくならぬようにする。
- 教師：「私」が北村さんに「真剣になって」注文を付けることにしたのは、なぜだろう。
- 生徒D：腕を動かすのも大変な北村さんが真剣に絵を描いているのに、元気な私が真剣でなかったらいけない。
- 生徒E：北村さんとの最高の作品を作り上げたいから。
- 生徒F：北村さんの絵に希望を感じ感動したから。

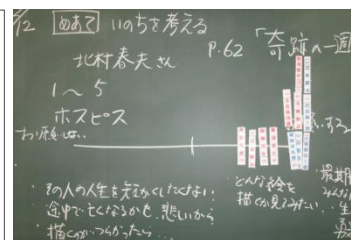


○ 指導上の留意点・支援等

個人→班→全員で話し合う。北村さんの一生懸命生きる前向きな姿に、主人公「私」は北村さんに対して「患者」としてだけではなく「一生懸命生きている人」として真剣に向き合ったことに気付かせる。補助発問の「北村さんが絵を描く姿を見て、「私」は何を感じたのだろう。」から、すごさ、力強さ、神々しさ、畏敬の念に気付かせたい。

(3) 終末 生きるとはどういうことなのか考える。

教師：北村さんに、あなたはイラストをお願いしますか。
教師：限りある命をこれからどう生きることが大切だろう。
生徒A：1日1日を大切に前向きに生きる。
生徒B：1日1日をしっかり考えながら、真剣に進んでいく。
生徒C：何事にも一生懸命取り組み、悔いを残さないこと。
生徒D：「限りある命」だということを理解し、真剣に生き、感謝しながら生活する。



○ 指導上の留意点・支援等

導入と同じ発問をし、心のものさしのネームプレートの移動で変容を見る。
限りあるからこそ命をむだにしないことが大切なことに気づかせる。

3 評価について

- 【評価】北村さんの生きる姿から、生きることの意味について考える主人公「私」や友達の意見を知ることを通して、自分を振り返って「生命の尊さ」についての考えを深めていたか。
- 「北村さんにイラストをお願いするか、しないか」を導入と終末で同じ質問をし、心のものさしにネームプレートを貼り、生徒の考えの変容を見る。
- 机間指導、発言、ワークシートの記述で評価する。生徒Aは、「限りある命だと思うと悲しくなってくるけど、真剣に生きて後悔のないようにしていきたいと思いました。」生徒Bは、「北村さんのように重い病気にかかっても、前向きな気持ちで亡くなるまで生きられる人に私もなりたい」とワークシートに書いていた。

4 実践を振り返って

「イラストをお願いするかどうか」を導入と終末で行い変化をみる手立てはよかった。そこで、「どうして変わったのか」を語らせると生徒の考えがより深まったと思われる。また、主人公「私」の気持ちを考えることが読み取りのようになり、グループで話し合う際、伝えて終わりになってしまっていた。ゆきぶるような問いをすると、「でも・・・」「だって・・・」と生徒同士の対話がつながっていき深まっていたのではないかと考える。

ねらいである「自他の生命を大切にしようとする心情を育てる」に対して、生徒は自分の生命を大切にしていくことについて考えることができていた。しかし、授業後の検討会において、「他人の生命のことまで考えるに至っていなかったのではないか」という意見をいただき、以下のように代案を考えた。

【代案1】 発問内容を変更した授業展開

- ①北村さんをお願いするか？本文を範読する。
- ②「私」はお願いしたことを後悔しているか？
- ③未完成の2枚があったが、北村さんは幸せだったのか？
- ④あなたは北村さんをお願いするか？
- ⑤（振り返り）限りある命をこれからどう生きるか？

【代案2】 1つの発問での授業展開

- ①北村さんをお願いするか？心のものさしを、本文を読む前に生活経験や感覚だけで問う。
- ②本文を範読し、北村さんをお願いするか？読後の心のものさしの変化を見て、どうして変化したのか語らせる。

生徒がこれからの人生で命の価値を尊重し、他者に対して優しさと共感をもって接することができるようになるために、生徒自身が自分ごととして考え、答えを見つけられるような発問を工夫し、人としての生き方について考えを深める場を作っていきたい。

～郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度～

周南市立岐陽中学校

1 本授業におけるポイント

- 班活動では、あらかじめ役割を決定しておくことで、話し合い活動に集中させ、自由に意見を出し合える雰囲気をつくる。（話し合いの工夫）
- 班活動では、それぞれの意見をマッピングで表すことで、思考が見える化し、話し合いの過程で似た意見を線で結び矢印で意見の流れを記入したり、新たな意見を構築させたりすることで探究していく。（問題解決的な学習）

2 授業の実際

1 主題・教材名 郷土の発展に努める

「アップルロード作戦」（あかつき教育図書）

2 ねらい

郷土に目を向け、自分たちの力で、地域に住む人々とともに、地域社会をよりよいものに発展させていこうという自覚をもつとともに、地域社会の一員として進んで郷土の発展に努める道徳的実践意欲を培う。

3 学習指導過程

（１）導入 学習課題の意識化を行う。

教師：周南市の魅力は何か。
生徒A：工場夜景
生徒B：冬のイルミネーション
生徒C：海と山が近いこと。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・個人で考えた後に、班で考え、発表する。
- ・多くの困難を乗り越え、現在も飯田市を象徴するものになっていることを確認する。

（２）展開 学習課題の追究を行う

教師：アップルロード作戦が、大変な困難を乗り越えて、今でも続けられているのはなぜか。

- 1 班：飯田市を魅力的にしたいという思いが地域に広がったから。
- 2 班：これまでの行動が地域の理解と連帯感を生み出し、たくさんの人の「思い」を受け継いでいるから。
- 3 班：生徒の熱い思いを受け継いでいることが市民にも伝わっているから。
- 4 班：これまでの生徒の努力や思いをここで終わらせたくないから。
- 5 班：これまでの生徒や応援してくれる人など関わったたくさんの人の思いが伝統を繋いでいるから。
- 6 班：学校だけでなく地域と一致団結して思いを受け継いできたから。
- 7 班：飯田市を思っ取り組んできたこれまでの生徒の気持ちを理解したことで、今の生徒自身にも「受け継ぎたい意志」が育ったから。
- 8 班：大切に育てられてきた「思い」が市のシンボルになるほど地域に定着したから。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・発問の前に、教材の内容を共通認識するために、現在の飯田市のアップルロード作戦の動画を視聴させる。

- ・個人で考えた後に、班で意見交換をさせる。ホワイトボードに記入後、黒板に貼り発表させる。
- ・多くの困難を乗り越え、現在も飯田市を象徴するものになっていることを確認する。

(3) 終末 学習の振り返りを行う

教師：周南市の魅力を維持、発展させるために、自分自身にできることは何か。

生徒A：まずは、周南市のことを知ることだと思った。

生徒B：発展させるためには、魅力だけではなく課題点を見つけて改善策を考えることも大切だと思うので、課題点を見つけること。

生徒C：伝統の「形」を受け継ぐのは難しいけれど、今まで伝統を受け継いできた人々の「思い」を知り大切にすること。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ワークシートに記入させる。
- ・自分たちの地域に置き換え、自分ごととして考えるように声かけする。
- ・自分から住んでいる地域に関心をもつことの大切さに気づかせる。



3 評価について

- 話し合い活動や、ワークシートへの記述から「郷土の伝統」に対しての考え方に広がりや深まりがあったかどうか。
- 生徒の発言や、ワークシートへの記述から、地域社会の一員としての自覚を持ち、郷土の発展に努めようとする発言や記述があったかどうか。

4 実践を振り返って

本時は、主発問を1つに絞ったことで深く掘り下げて考えている様子が見られた。個人での思考から班活動を行うことで、対話的な学びを行うとともに、これまでの生徒や地域、今の生徒等、多角的な視点から考えることもできていた。普段からマッピングを使って意見をまとめたり、新たに意見を作り出したりすることが多く、生徒も経験を重ねるごとに、マッピングの手法や過程を踏まえた発表が上達している。

今後も、ねらいに向かってじっくりと考え話し合えるような中心発問や自分と向き合い自身のこととして考える振り返りのテーマなどを設定できるよう、引き続き研鑽を積んでいく。

～公正、公平、社会正義～

周南市立秋月小学校

1 本授業におけるポイント

- ペアや小グループを作り、意見を交換したり選択したりすることで、多面的・多角的に考えるようにした。
- 教材上の道徳的な問題場面の中で、登場人物の言動が公平か不公平であることを話し合わせる活動を設定した。子ども自身が日常的な場面を振り返り、自分自身の問題として捉え、話し合うことで、問題解決的な学習の工夫を図った。

2 授業の実際

1 主題・教材名 誰にでも公平に「大好きな フルーツポンチ」(東京書籍)

2 ねらい

公平とは何か話し合う活動を通して、自分の好き嫌いにとらわれないで人に接しようとする道徳的判断力を育てる。

3 学習指導過程

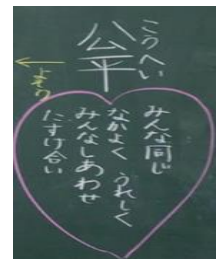
(1) 導入 「公平」という言葉から、意味について考え話し合う。

教師：「公平」という言葉を知っていますか。

児童A：公園の「公」に、平和の「平」と書くよ。

児童B：みんな同じという意味だよ。

児童C：みんなが公平だと、みんなが仲良く、幸せになると思うよ。



○ 指導上の留意点・支援等

「公平」について考えることを伝え、児童が問題意識をもてるようにする。また給食の配膳など、身近な「公平」の事例を示すことで、意味を知らない児童も場面や意味を想像し、理解できるようにする。

(2) 展開 教材の範読を聞き、登場人物の行動が「公平」であったか話し合う。

教師：気を付けてよそい始めた「ぼく」は公平でしたか。

児童A：足りなくならないように気を付けているから、公平だね。

児童B：みんなのことを考えているから、公平でいいね。

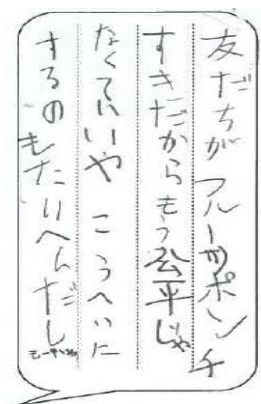
児童C：みんな同じ量にすると困る人がいないから公平だね。

教師：友達のしゅんたさんのものだけ、たくさん入れたのは「公平」でしたか。

児童A：仲良しだからって、その人だけ多く入れるのは公平じゃないよ。

児童B：みんなのことを考えてないから、不公平だよ。

児童C：このままだと、嫌な気持ちになる人がいるよね。



○ 指導上の留意点・支援等

みんなが大好きなものをどのようによそうとよいか考えさせ、話し合わせることで、公平とは自分の好きなものや人だけでなく、みんなにとってよいものであることに気付かせるようにした。

(3) 終末 学習を振り返る。

教師：これからの学校生活で、公平に過ごすために大切なことは何でしょう。今日の学習を振り返ってどうでしたか。
児童A：ぼくには仲がよい友達がいるけど、みんな仲間だから大切にしたいです。
児童B：誰かが嫌な思いをすることなく、みんなを大切にしていきたいです。
児童C：みんなの笑顔が毎日見ることができる学校生活を送りたいです。
児童D：班の友達の意見を聞いて、自分と同じ考えだったので、聞けてよかったです。
児童E：〇〇さんのみんなが不公平にならないようにしたいという意見を聞いて、自分もそうしたいなと思いました。

これからみんな公平にして、不公平な思いをしないようにして、いやな気持ちにならないようにして、みんなを大切にしたいです。

○ 指導上の留意点・支援等

今後、公平をどのように意識していくのかを考えさせることで、本時の学びを学校生活へと生かせるようにした。学習方法についても振り返らせ、その学び方を価値付けることで、本時の学びを他教科や他の道徳科の学習にも生かせるようにした。

3 評価について 評価方法（見取り、ワークシート等）

- 自分なりの公平について考え、公平に接することのよさを実感している。（見取り）
- 公平に接するために、今後、自分がすべきことを考え、まとめている。（ワークシート）
- 他児童の意見を自由に見てコメントを書き、多様な意見に触れている。（ワークシート）

〇見ていた人たちは、どんな気持ちだったでしょう。
なして、おもしろい。？
じぶんが、少なくて、これやう
いや、でも、ブルン、ダメだよ

4 実践を振り返って

○ 話し合い活動について

- ・ 意見をワークシートへまとめた児童から、他児童の意見を自由に見てコメントを書かせることで、多様な意見に触れることができ、話し合いの時「〇〇さんは～」と例を示したり自分と同じ意見に安心感をもって話し合いをしたりできている様子が見られた。
- ・ 登場人物の言動は「公平」であったかという話し合いの視点を設定することで、思考を拡散させることなく、子どもが話し合いをすることができていた。

○ 学習を振り返る活動について

- ・ 公平な行動や意識とは何か、公平にすることのよさを問うことで、自分勝手に行動するのではなく、誰に対しても公平に接する大切さを実感できるようにした。
- ・ 学習内容や学習方法の振り返りについては、ワークシートで価値付けた。また、学級全体で学びの質を高めるために、振り返りを全体で共有する時間を設けた。
- ・ 児童の日常生活へよりつなげるために、事前アンケートの実施などを取り入れ、授業の構成を工夫していきたい。

～親切、思いやり～

山口市立仁保小学校

1 本授業におけるポイント

- 導入で親切にした経験を想起し、その中で思ったように親切にできなかった経験についても全体で共有することで、道徳的価値への問題意識をもち、学習課題に向かうことができるようにする。
- 全員が話し合いに参加する意識をもち、自由に意見を出し合う雰囲気をつくることができるように、展開の話し合いの際に、机の配置を円形にするなど話し合いの形態を工夫する。

2 授業の実際

1 主題・教材名 相手のことを考えて「最後のおくり物」（東京書籍）

2 ねらい

ジョルジュじいさんの行為の中にある親切な心について話し合うことを通して、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 アンケート結果をもとに、親切にした経験やうまくいかなかった経験を想起する。

教 師：これまで親切にしたこと、されたことはありますか？
 児童A：重い物を一緒に持ってあげた。
 児童B：一人のときに話しかけてもらった。うれしかった。
 教 師：親切にしようとしたけど、自分が思ったように親切にできなかった経験はありますか？
 児童C：手伝ってあげようとしたのに、「いい」と言って断られた。
 児童D：妹のお世話をしようとしたのに、泣かせてしまった。

○ 指導上の留意点・支援等

親切にしたりされたりした経験を想起することで、日常の中で多くの親切な行為があることに気付くようにするとともに、親切がうまくいかなかった経験についても共有し、道徳的価値に問題意識をもって学習課題に向かうことができるようにする。

（2）展開 教材を読んで、親切について話し合う。

教 師：ジョルジュじいさんの親切なところはどんなところですか？
 児童A：自分を犠牲にしてまで、ロベーナにお金をあげたこと。
 児童B：自分の病気の治療のためにお金を使うのではなくて、ロベーナのためにお金を使ったのが、すごいと思う。
 教 師：なぜジョルジュじいさんは、自分がお金をあげていることをロベーナに伝えなかったのでしょうか。
 児童C：ロベーナのため。ロベーナが気をつかわないように。
 児童D：ジョルジュじいさんだと分かったらお金を返そうとするかもしれない。ロベーナに夢に向かってがんばってほしいから伝えなかったのだと思う。

教師：親切にするとときに大切なことは何ですか。
児童A：相手の気持ちを分かってあげること。
児童B：相手の気持ちに寄り添うこと。
児童C：思いやりの気持ちをこめて親切にすること。

○ 指導上の留意点・支援等

全員が話し合いに参加する意識をもつことができるように、机の配置を円形にする。話し合いの中で、ジョルジュじいさんが正体を明かさなかった理由を問い返すことで、ジョルジュじいさんがロベールの立場に立って親切にしたことに気付くことができるようにする。教材を通して学んだ親切な行為と、導入での親切な行為を比較することで、自分が思う親切な行為と相手が求める親切な行為にズレがあるとうまくいかないことに気づき、道徳的価値への理解が深まるようにする。

(3) 終末 これまでの生活を振り返り、これからの生き方について考える。

教師：自分の生活を振り返り、これから大切にしたいことについて書きましょう。

○ 指導上の留意点・支援等

教材から抜け出し、自己の生き方について考えることができるように、ワークシートに「私はこれまで～。これから～。なぜなら～。」の形で書くようにする。

3 評価について

○ ワークシートの記述

これまでの生活を振り返り、話し合いの中で見つけた道徳的価値のよさを、これからの自分の生活に生かそうとしている。

児童A：わたしはこれまで、親切にしてあげたり、親切にしてもらったりした経験はたくさんありました。だけど、親切にすると、なかなか声をかけてあげることができませんでした。これからは、親切にすると、相手の気持ちによりそうことを心がけたいです。なぜなら、気持ちによりそうことで、相手もきっとうれしいからです。だから、どんどん親切にしてあげたいです。

児童B：私はこれまで相手の気持ちによりそうことがあまりできなかったと思います。これからは、相手の気持ちによりそえるようになりたいです。なぜなら、実際によりしてもらえてなにより自分がうれしかったからです。

4 実践を振り返って

導入で親切にしたことやされたことだけではなく、親切にしようとしたけどうまくできなかった経験を想起したことで、終末で自分の生活を振り返る際の一つの視点になった。本時のねらいである「相手の立場に立った親切な行為」のよさに気づき、これからの生活に生かそうとする姿が見られた。また、話し合いの際に机の配置を円形にすることで、お互いの表情を見ながら話すことができるため、児童同士の対話が増え、他者理解が深まると感じた。

本時では「登場人物の親切なところは」という発問をすることで、登場人物の思いやりの行為やその奥にある心情について捉えることができた。さらにもう一步道徳的価値を深めるための効果的な問いかけや問い返しができること、より理解が深まったと思われる。今後は、児童の対話によって道徳的価値の理解を深めていくことができるように、発問や問い返しの工夫に努めたい。

～国際理解、国際貢献～

山口市立秋穂中学校

1 本授業におけるポイント

- 4人グループで自由に意見を出し合える雰囲気づくりをし、しっかり他者の意見を聴きながら自分の考えを正確に他者に伝えるようにする。
- 事前のアンケートを活用して、外国人に対する偏見が自分の中にあるかどうか、自分の現状について考えさせる。

2 授業の実践

1 主題・教材名 国際理解「むこう岸には」（光村図書）

2 ねらい

川の兩岸に住む肌の色や髪の毛、服装が異なる少女と少年の物語を描いた文章を通して、他国の人々や文化を理解すると共に、互いを尊重し合い、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

- (1) 導入 事前アンケートの結果を見たり、教師の異文化交流の経験を聞いたりして、外国人に対する感じ方について共通理解する。

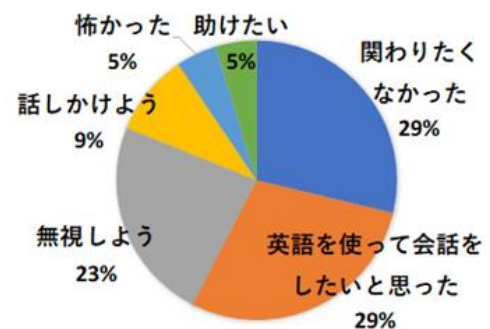
教 師：外国の方と接したときや、外国の方を見たときの感じ方についての事前アンケートの結果を見て、どう思う？

生徒A：「英語を使って会話したい」と「関わりたくない」という逆の意見の人が、それぞれ同じくらいいる。

生徒B：「関わりたくない」「無視しよう」が合わせて半分くらいいるので、多すぎる。

生徒C：外国人は日本人と違うという思い込みがあるかもしれない。

教 師：私たちには、少なからず、外国人に対する偏見や差別意識が存在しているのかもしれないね。



- 指導上の留意点・支援等

外国の方に対して、人それぞれ感じ方が違うだけでなく、自分の中に外国の方に対して、無関心な気持ちがあることを自覚させる。

- (2) 展開 「この川に橋をかけるんだ。」という言葉には、二人のどんな思いが込められているか考える。

教 師：「この川に橋をかけるんだ」という言葉には、二人のどんな思いが込められているのでしょうか。

生徒A：自分たちとは違う人でも仲良くしたいという思い。

生徒B：偏見や差別がない社会にしたい。いつかみんな仲良く暮らすために、いろんな人と会ってみたいという思い。

生徒C：お互いの村の人たちを偏見で決めつけることをやめてほしいという思い。

生徒D：移動手段としてだけではなくて、人種や性別、年齢に関係なく、笑い合える心のかけ橋をつくりたいという思い。

○ 指導上の留意点・支援等

お互いに、相手の国や地域、文化、習慣をよく知ることによって偏見や差別意識がなくなり、心の壁を取り除くことができ、それが、国際理解につながることに気付かせる。

また、個人で考えた後、グループで話し合う活動を取り入れ、自分の考えを友達と伝え合うことができるようにする。

(3) 終末 他国の人と理解し合うために大切な心について考える。

教師：他国の人と理解し合うために大切なのは、どんな心でしょう。

生徒A：見た目やうわさで相手を決めつけない心。相手を知ろうとする心。

生徒B：見た目や考えの違いを尊重し合える心。

生徒C：自分から話しかけたり、偏見をなくしたりする心。

生徒D：すべて同じことを求めるのではなく、お互いの違うライフスタイルや伝統を大事にする心。

生徒E：困っている人を助けてあげる、思いやりの心

○ 指導上の留意点・支援等

価値観は違っても幸せに過ごしたいという思いは他国の人と同じということを押さえた上で、他国の人と理解し合うために大切な心について考えさせる。

3 評価について

- 評価方法 「この川に橋をかけるんだ。」という言葉に込められた思いや、他国の人と理解し合うために大切な心についての考えを、話し合い活動の様子やワークシートから見取る。

4 実践を振り返って

生徒は、インターネット等を通じて外国の情報にふれる機会が多いが、直接外国人と接する機会が少ないため、自分ごととして互いの文化や価値観の違いを尊重し合うことの大切さなどについて考えることが難しい。そのような状況を踏まえ、自分ごととして考えやすいように、事前アンケートの質問は、「学校や秋穂地区で」という設定にした。事前アンケートにより、外国人に対する偏見が自分の中にあるかどうか、自分の現状について考えさせることができた。また、教師の体験談は様々な国の人の写真もあり、他国の人についてイメージをもちやすくする効果があった。

「この川に橋をかけるんだ。」という言葉に込められた思いを考える活動では、個人で考えた後に4人グループで話し合うことで、様々な意見が出た。「外国の人と仲良くしたい」「偏見をもたないようにしたい」など前向きな意見が出た。しかし、話し合いにより、十分に考えを深められていない部分もある。今後は、効果的な話し合いの仕方を工夫したり、物事を多面的・多角的に考える発問を工夫したりして、深く考えさせることができるようにしたい。

～勤労、公共の精神～

宇部市立厚東小学校

1 本授業におけるポイント

- ICTを活用して、事前に「働く」とはどんなことかアンケートを行い、「働く」ことに対する児童のイメージを確認する。また、本時で学ぶ道徳的価値に関わる「ボランティア」について関心が高まるように画像等を提示しながら考えを深めるようにする。
- ボランティア活動に対する意識について話し合いが深まるように、児童の思考に沿って発問をすることで、多面的・多角的に考えられるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 誰かのために役に立つとは 「クール・ボランティア」
(光村図書)

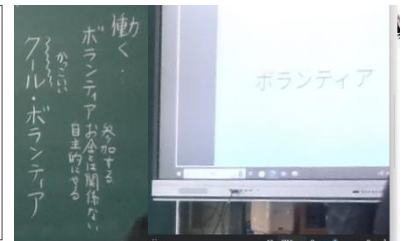
2 ねらい

「クール・ボランティア」の本当の意味を考える主人公の姿を通して、働くことの意義について考え、みんなの役に立つことをしようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

- (1) 導入 「働く」とはということなのか、アンケートを活用して自分の考えを整理する。また、ボランティアという言葉について知る。

教 師：「働く」とはどんなことだろう。
 児童A：お金を稼ぐこと。
 児童B：仕事をしてお金をもうけること。
 児童C：電気とか水道とか人が生活していくのに必要なことのために仕事することだと思います。
 教 師：今日考える「働く」とは、お金とは関係なく自主的に働く「ボランティア」についてです。

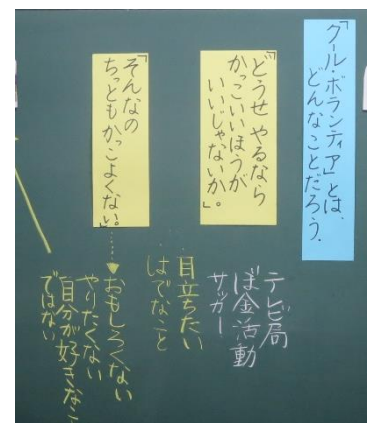


- 指導上の留意点・支援等

「働く」とは、仕事をする事やお金を稼ぐことをイメージする児童が多く見られたので、本授業では、「ボランティア」という言葉を確認したり、「クール」という言葉の意味に触れたりすることで、考えるポイントを意識させることにした。そうすることで、「誰かのために進んで働く」という主題につながるようにした。

- (2) 展開 場面の状況を想像しながら、主人公が考えたことや本当の意味の「カッコいい」について話し合う。

教 師：主人公が初めに考えていたボランティアと実行したボランティアとは、どう違うのだろう。
 児童A：初めに考えていたのは、目立つことやカッコいいこと。
 児童B：大掛かりなことがカッコいいと思っていた。
 児童C：自分が好きなことなら、やってもいいと思っていた。
 教 師：本当の「クール・ボランティア」とはどんなことだろう。
 児童D：誰かが喜んでくれることをすることだと思います。
 児童E：役に立ちたいと思って動くことだと思います。



○ 指導上の留意点・支援等

ペアやグループでも話す時間を取り、いろいろな人の考えを聞き合うよう促すことで、自分の考えを確認することができるようにした。また、様々なボランティアの画像や校内でのボランティア活動についても提示し、そこで活動している人ともつなげるようにして、自分にとって身近なこととして考えられるように工夫した。

(3) 終末 本時の学習を振り返り、自分の考えを書く。

教師：大切だと思ったことや新しく気付いたことを振り返りましょう。
 児童A：誰かの役に立つことを進んでやってみたいと思いました。
 児童B：妹と一緒にゴミを拾ったことも、ボランティアだったのかなと思いました。
 児童C：今度どこかに行くときは、ビニール袋を持っていくとゴミを拾うことができると思いました。

ふり返いをしよう		
今日の学習をふりかえって		
自分の心を……		
みる み	と と	じつ じ
未 み	友 と	自 じ
大切だと思ったことは	未来（これから）に	友だちの意見の
	……が心に残った	……すると思う
		自分だったら……

○ 指導上の留意点・支援等

振り返りがまとまらない児童には、板書や画像を見ながら学習したことを振り返ったり、「じつとみるカード」を提示し、自分がこれからできそうなことを考えてみるように促したりするなどの助言をした。

3 評価について

○ワークシートから自分なりに考えたことを見取る

○友達との話し合いの様子や授業中の発表から見取る

本授業では、以下のことについて評価を行った。

- ・「クール・ボランティア」とはどんなことなのかについて自分なりの考えをもっていたか。
- ・友だちの話を聞きながら進んでみんなのために働くことの意義について考えようとしていたか。

未 み	友 と	自 じ
時分 動	友 友	自 自
これは自分からボランティアをやる	友だちの意見の	自分だったら……
……が心に残った	……すると思う	……

4 実践を振り返って

「働く」ことについてのアンケートを事前に行ったことにより、児童は金銭を伴う勤労を思い浮かべることがうかがえた。そこで授業では、誰かの役に立つために進んで働くことについて話し合うために、「ボランティア」という言葉に焦点を当てて話し合いを進めていくことで、児童は集中して考えることができたようである。

「ボランティア」という言葉が自分にとって身近なこととして捉えにくい児童も見られたので、実践する意欲につなげるために校内での活動や行事などでの活動とつなげ、児童を認め励ますことも必要だと感じた。

～友情、信頼～

宇部市立二俣瀬小学校

1 本授業におけるポイント

- 発問の工夫（考える必然性、切実感のある発問）
- 話合いの工夫（効果的な話合いの仕方、自由に意見を出し合える雰囲気づくり）

2 授業の実際

1 主題・教材名 真の友情とは 「ロレンゾの友達」（光村図書）

2 ねらい

不確かな情報の中、優先すべきなのは正しさか友情か議論する活動を通して、本当の友情の理解を深め、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 本当の友達とは何かを考える。

教 師：本当の友達だと思う人の名前をワークシートの裏に書きましょう。…書けた人と書けなかった人がいますね。では、書けた人は、なぜその人を選んだのか理由を教えてください。書けなかった人は、なぜ書くのをためらったのかを教えてください。

児童A：話しやすくて、遊んでいても楽しいから。

児童B：友達はあるけど、本当と言われると難しい。

児童C：「本当」の意味を考えていた。楽しければいいのかな。

なぜ、その人を選んだのか理由を教えてください。ためらった理由を教えてください。	
友達はたくさんいるけど、本当の友達という、しほれない、偉大のものがほしい。	友達はたくさんいるけど「本当の」と書かれていたので、後者からずっと一歩引いた。必ずしも正しいと思ったから。
友達はいっぱいいるけど、本当のといわれると難しい。まだあたはっかかりだし、付き合いが短いから。	喋りやすい、遊びやすい人。遊んだら嫌な人になりた。
友達がその人しほくない	みんなともだちだから、決めにくいしめたとしてもほかのことがわい。

○ 指導上の留意点・支援等

学級の実態に応じて、問いかけの言葉は変える。また、自分には友達がいるいないということで一喜一憂することなく、本当の友達とは何かという疑問を抱かせるよう留意して指導に当たる。

（2）展開 教材を読んで、正しい情報が分からない中で優先すべきなのは正義なのか友情なのかを話し合う。

教 師：ロレンゾが罪を犯したかどうか分からない中、あなたのもとにロレンゾが訪ねてきたらどうすればよいのだろう。

児童A：何が正しいのか分からないのに、疑うのはかわいそうだよ。

児童B：法律は守るべきだと思う。

教 師：友情よりも大切？

児童B：大切。正しいことを教えてあげることが友情だと思う。

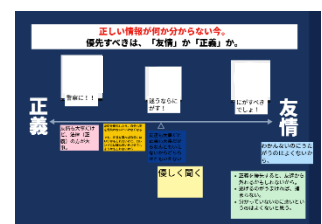
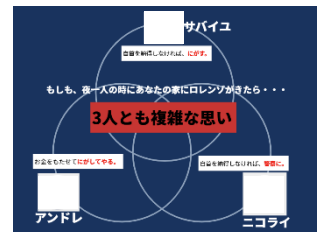
児童C：優しく聞いてみたらどうだろう。もし本当に罪を犯したなら、かばうことは自分も罪を背負うことになるよね。

児童A：でも、それは自分のことだよ。友達の心配をするべきではないかな。

児童B：自分の心配をすることは、友達のことを大切にしないことにならないかな。

児童D：本当の友情とは言えないね。

児童D：正しさも友情も両方とも大切だから難しいね。



○ 指導上の留意点・支援等

主発問につながるのある補助発問を重ねて、児童の考えを深め、主発問を自分事として考えられるようにする。（教材から読み取れることなく、自分はこのように思う、自分だったらこのようにしてみる、など）また、ロイロノートで意見を集約し共有することによって、他の児童の考えをいつでも確認し、自分の考えと比較することができるようにする。教材から逸脱できない児童に対しては、教師が問い返しをする。

話合いの論点は、児童がすぐに結論付けできないものを設定する。教員もジェネレーターとして話合いに参加し、どちらが正しいかではなく、どちらも友達のことを思っている方向に話を進める。

（３）終末 ４人の間には、本当の友情はあったのか考える。

教師：４人の間には、本当の友情があったと思いますか。

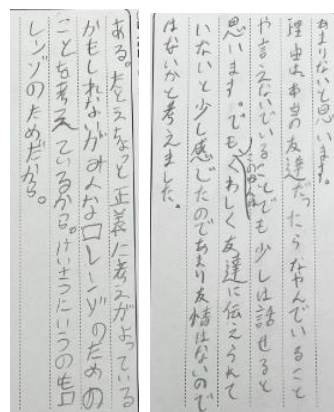
児童Ａ：友情はある。みんなロレンゾのためのことを考えている。

警察に知らせることもロレンゾのため。

児童Ｂ：一人ひとりの言葉は、ロレンゾのことを心配して言っているもので、それだけ心配するほど友情は深いと思いました。

児童Ｃ：どちらの考えもロレンゾのことを考えているから友情はあると思います。

児童Ｄ：あまりないかもしれない。本当の友達なら、悩みを話せると思う。最後は、伝えられていない。

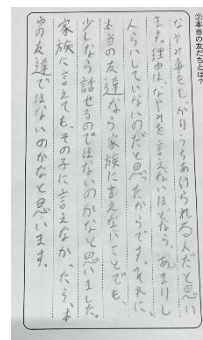


○ 指導上の留意点・支援等

話合いで広がった見方・考え方を整理する。その後、振り返りでは「あなたが考える本当の友達とは」について考えさせる。また、授業の最後にどんな理由があろうと法律は守らなければいけないという補足説明を加える。

3 評価について

- ・ ３人の考えをもとに、根拠のある自分の意見をもっているかどうか。また、多様な意見を交わす中で、課題を多面的に捉えているかどうか。（展開）
- ・ 本時の学習で考えたことを踏まえ、「本当の友達」に対する理解が深まり、自分なりの定義をもっているかどうか。また、今後の自身の行動を見つめ直そうとしているか。（終末）



4 実践を振り返って

「考え、議論する道徳」の中でも議論することが自分自身の課題であった。多様な意見が飛び交うことなく、授業をしなくても答えられるような結論で終わってしまう表面的な授業から脱却するために、中心発問をどうするかを考えた。そこで、「教師自身が、教材の中で結論が出ない問題はないか」という視点で発問を考えるようにした。結果的に、議論が盛り上がり、多様な意見が交わされる授業が増えたように感じる。しかしその一方で、その教材が意図するねらいや内容項目から外れてしまう議論になってしまうことがある。議論する問題と教材のねらいとのつながりをどのようにもたせていくか、今後の課題としていきたい。

～国際理解、国際親善～

宇部市立小野小学校

1 本授業におけるポイント

- 他国の食べ物や生活スタイルについて感じたことを自由に話し合うことで、他国の文化について知ることのおもしろさに気づき、他国に対する興味や関心が広がるようにする。
- 保護者や地域の方々と意見を交流することで、自分たちにはない考えに触れ、多面的に物事を考えられるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 せかいのことを知ろう

「日本のお米、せかいのお米」（光村図書）

2 ねらい

おにぎりのおいしさから、お米に興味をもち、世界の米料理を調べる「わたし」の姿などを通して、他国の文化について知ることのおもしろさに気づき、他国で作られたものや、他国から伝わってきたものを知り、他国の文化や伝統に興味をもち親しもうとする実践意欲を高める。

3 学習指導過程

（1）導入 外国の料理で知っているものや、他国の食文化について話す。

教師：日本といえばお寿司が有名だけど、外国ではどんな食べ物があると思いますか？
児童A：ナンを知っているよ。
児童B：給食で台湾カステラを食べたね。
児童C：外国ではお米を食べないと思うな。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 児童から発言が出そうな料理の写真を準備しておくことで、全員がその食べ物についてイメージすることができるようになる。
- ・ 世界地図を見せることで、日本以外の国がたくさんあることを実感することができるようになる。

（2）展開 お米を使った料理の写真を見て世界の様々な料理について話し合い、給食の献立表や、外国の文化が載っている本やインターネットを使って、外国の文化について調べてみる。

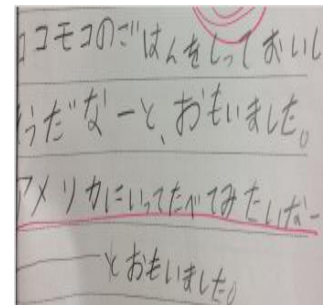
教師：いろんな国の料理がありますね。初めて見た料理や食べたことがある料理はありますか？
児童A：「パエリア」って食べたことがないけど、聞いたことはあるよ。
児童B：ビビンバってお米を使っているけど日本の食べ物ではないんだね。
児童C：ロコモコをアメリカに行って食べてみたいな。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ いくつか実物を用意して、世界の様々な食べ物や商品が日本にも売られていることを知り、さらに興味をもつことができるようにする。
- ・ 保護者や地域の方々と一緒に教科書のお米料理を1つずつ確認し、どこの国か予想を立てたり、食べたことがあるかを聞いたりすることで、興味を高めることができるようにする。
- ・ 教材を通して、料理だけに限らず様々な文化に触れることで、これまでの日常生活の中に実は外国の文化が多く使われていることを知り、外国の文化を身近に感じることができるようになる。

(3) 終末 今日の学習を振り返り、考えたことや思ったことを話し合う。

教師：いろいろな国の食べ物や生活の仕方を知ってどう思いましたか？もっと知りたいことはありますか？
児童A：違う国のごはんを知って、こんな食べ方があるんだなとびっくりしました。
児童B：ベトナムの「フォー」がうどんと似ていておいしそうなので食べてみたいと思いました。
児童C：国によって、食べ方や家での過ごし方が違うのが面白かったです。アメリカに行ってみみたいです。

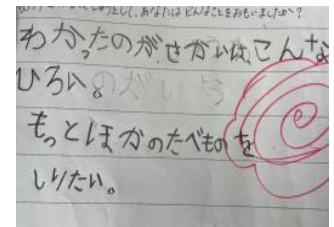


○ 指導上の留意点・支援等

導入時のこれまでの外国についての自分の知識を再度思い出させることで、これからもっと調べたいこと等を具体的に考えることができるようにする。

3 評価について

- 外国のことについてもっと知りたいという興味・関心を高めていたか。（見取り、ワークシート）
- 一面的な見方から多面的な見方へと発展させているか。（発言、ワークシート）



4 実践を振り返って

参観日を利用して、保護者の方にも参加していただきながら授業を進めたことで、子どもたちが気付いていないだけで家庭でも外国の料理が自然と出ていることに気付くことができたようだった。また、子どもたちが知っていそうな外国の料理の実物（ナンやビビンバ等）を見せると、料理は知っているけれど、それがどこの国の食べ物かまでは知らなかった。そこで、地図や本を利用して食だけでなく生活の仕方や文化に発展させながら進めることでその国についての興味・関心が高まったように感じた。

この日は、学習後に「共生社会理解」についての講話があり、学習したことをさらに深めることもできた。

～よりよい学校生活、集団生活の充実～

下関市立一の宮小学校

1 本授業におけるポイント

- 事前にアンケートをとることで、自己を見つめ、自分ごととして考えたり、変容を実感できるようにしたりした。
- タブレットを活用して自分の考えをアウトプットし、画面に映し出すことで意見を共有したり、自由交流（立ち歩き意見交換）をしたりして、多面的で多角的な考えに触れる場を設けた。

2 授業の実際

1 主題・教材名 集団生活のじゅうじつ「真由、班長になる」（日本文教出版）

2 ねらい

集団で活動する時には、全員が気持ちよく活動できるように考えて行動するという大切な役割が一人一人にあることに気付き、その役割を果たして集団活動を充実させようとする道徳的態度を育てる。

3 学習指導過程

- （1）導入 ①（事前アンケート）集団の中の自分の役割について書く。その役割を果たしているかどうかと、そう考える理由を書く。（人間理解）
- ② “集団の中での自分の役割”の捉え方には当然ばらつきがあることを把握し、再度自分の役割について考える。

教師：集団の中での自分の役割を果たしているかというアンケートをとりました。その結果です。

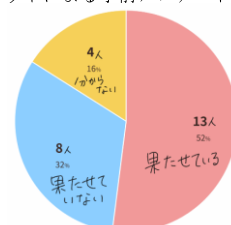
児童A：自分の役割を果たしている・・・13人

児童B：自分の役割を果たしていない・・・8人

児童C：分からない・・・4人

教師：A・Bの人は“集団の中での自分の役割とは何だ”と思って答えたのかな。分からないと答えた人はこれから、集団での自分の役割って何だろうと考えていきましょう。

タブレットによる事前アンケート



○ 指導上の留意点・支援等

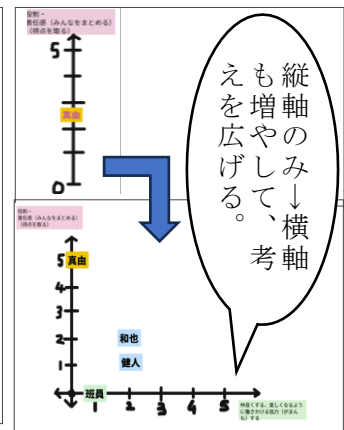
この時点では“集団”を学校、学級、クラブの仲間のことだと捉えているなど様々であったこと、それに伴い、“自分の役割”を委員会の仕事、宿泊学習の係（リーダーや活動係など）、クラスの中での係（学習係、保健係など）だと捉えているなど、こちらも捉え方が様々であることを押さえる。その上でのアンケート結果であることを確認する。分からない（4人）がよく考えていないというわけではないことを知らせる。

（2）展開①本文の範読を聞く。

②真由（班長）の「役割を果たしているレベル」を考える。

③他に役割がある人はいなかったかを考える。（他者理解→価値理解）

教師：真由さんは班長としての役割を果たせていたかな。
 児童A：班長の役割を果たせていたレベルは2です。なぜなら、班員みんなが不満を言っていて、楽しくなさそうだから、班をまとめられていないと思います。
 児童B：レベルは4だと思います。班員が輪を乱す時にはっきりと「自分の後ろについてきて」と言えるのはすごいと思います。
 児童C：レベルは1だと思います。リーダーシップをとっているけど、「偉そうだ」と言われる言い方をしていることに気付いていないからです。
 教師：班長以外に“集団の中の役割”がある人はいないのかな？
 児童D：班員全員に役割はあると思います。みんなが仲良く楽しくできるように働きかけるという役割です。



○ 指導上の留意点・支援等

- まずは“役割”とは何かを押さえ、“役割を果たせているレベル”を縦軸で考えさせる。次に、児童の発言の中から、“集団生活の中には、支え合う心・仲良くしようとする心・楽しくなるようにと働きかけること・みんなが少しずつ我慢をしようとする心・協力の心”も必要である（横軸）という考えを引き出し、縦軸・横軸の両方が大切であることを実感させる。
- 集団とは、二人以上のことを言い、リーダーや特定の人だけに“仕事”があるのではなく、全員に“みんなのために”という“役割”があることに気付かせる。これは、名前のない“役割”であるため、具体的な言動や、表情、心構えを考えさせたり、経験を想起させたりする。

（３）終末 「集団の中での自分の役割は何か、どのような言動を大切にしてお過ごししていきたいか」考えたことを書く。

教師：これまでの自分はどうかだったか、（アンケートに回答した時でもよい）これからはみんなと過ごす時、何を大切にしていきますか。書きましょう。
 児童A：“自分の役割を果たすこと”は、言いかえると“自分のことしか考えないわがまま”になってしまうこともあると思った。役目を果たしつつ、みんなが楽しく過ごせるように行動したい。
 児童B：〇〇さんの言った、「集団生活を送る中では、名前はついていないけど一人一人に役割がある。」という考えに納得した。みんなが少しずつ我慢すると、集団生活をする上では、協力になると思うので心がけていきたい。

○ 指導上の留意点・支援等

『①これまでの自分、②本時の学び、③これからの自分』と、『④自分の変容』を感じられるワークシートを用意する。

3 評価について

- 評価方法（交流時の見取り、ワークシートの記述）
 単なる係的な“役割(仕事)”だけでなく、“集団生活をよりよくしていくための自分の役割”もあるということに気づき、具体的な言動について考えを深めようとしているか。

4 実践を振り返って

- 縦軸と横軸を用いて『係としての役割』と『集団の一員として協力する役割（名前のない役割）』とを同時に示したことは、両面の重要性を視覚的に捉えやすく、理由も併せて引き出すことができるよい手立てとなった。

1 本授業におけるポイント

- 3つの事例で、公平と言えるか言えないかについて考えていくことにより、公平とは何に基づいてどのように判断すればよいか、考えることができる。
- ICT（ロイロノート）の効果的な活用をとおして、自分の考えを色別して「見える化」する。「見える化」した考えをクラス全体で共有したり、自分の考えと比べたりすることで、生徒が多面的・多角的に考える場を仕組む。

2 授業の実際

1 主題・教材名 公平とは何か 「公平と不公平」（日本文教出版）

2 ねらい

公平性を保つための判断基準をもつ大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする道徳的判断力を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 本時の学びのテーマ「公平」とはどのような意味かを考える。

教 師：「公平」とはどのような意味ですか。

生徒A：平等であるということ。

生徒B：みんな同じであるということ。

教 師：辞書で調べたら、かたよらずえこひいきのないことだそうです。

○ 指導上の留意点・支援等

平等と公平の違いなど、細かいことには触れず、公平とはどのようなものかイメージをもたせる。

（2）展開前半 「公平と不公平」を読み、事例A～Cのそれぞれについて公平といえるか言えないかを考える。

教 師：事例A、B、Cについて公平といえるのか、理由も含めて考えましょう。

ロイロノートで意見を提出してください。

ロイロノートのカードの色で、いえる、いえないを分けます。

うすい青カード・・・いえる

ピンクカード・・・いえない

事例	いえる	いえない	理由	公平
事例A	はい	いいえ	年齢で決めるのは公平。	公平
事例B	はい	いいえ	年齢でもらえる金額が違うのはおかしい。不平等。	不公平
事例C	はい	いいえ	車いすだと移動に制限があるし、他の人より移動に時間がかかるから。	不公平
事例D	はい	いいえ	みんな並んでいるから、先に入るのはおかしい。	不公平
事例E	はい	いいえ	その人が受け入れたならばよい。適材適所。	公平
事例F	はい	いいえ	班活動は班で協力しなくてははいけない。押し付けはよくない。	不公平

事例Aについて

いえる：Aさんも高校生になればその額をもらえるから、年齢で決めるのは公平。

いえない：年齢でもらえる金額が違うのはおかしい。不平等。

事例Bについて

いえる：車いすだと移動に制限があるし、他の人より移動に時間がかかるから。

いえない：みんな並んでいるから、先に入るのはおかしい。

事例Cについて

いえる：その人が受け入れたならばよい。適材適所。

いえない：班活動は班で協力しなくてははいけない。押し付けはよくない。

○ 指導上の留意点・支援等

時間内に理由がまとまらない生徒は、色のみで提出するように伝える。一つひとつの事例について、考えた理由を発表させるとともに、多様な考えに触れさせ、公平性の判断基準について主体的に考えさせる。

(3) 展開後半 公平であるために大切にしなければならないことは何かを考え、話し合う。

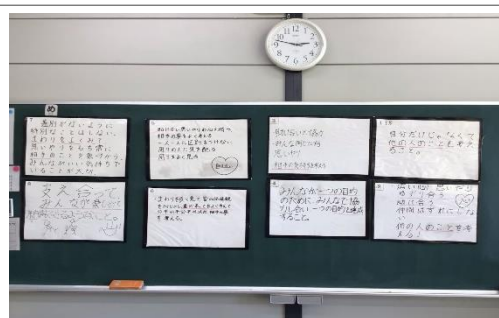
教 師：公平であるために大切にしなければならないことは何でしょうか。

生徒A：その人の立場や状況をよく考える。

生徒B：みんな同じ立場で考える。

生徒C：みんなが同じ気持ちになるように（納得するように）考えて動く。

生徒D：一人だけ特別扱いしないようにする。



○ 指導上の留意点・支援等

まず自分の意見を書いた後、班で意見交換をしてまとめていく。その後、全体に発表する。

(4) 終末 平等と公平の違いのイラストを提示して、「公平」とは何かを考える。

教 師：今日考えていく中で、平等という言葉も出てきました。平等と公平の違いはわかりますか？ 平等と公平の違いをあらわしたイラストがありますので、見てみましょう。

生徒A：同じものを与えることが平等で、結果が同じになるようにすることが公平だ。

生徒B：結果を平等にしていけることが、公平とは何かを考えていく上で大切になる。

○ 指導上の留意点・支援等

みんな同じにする「平等」と、「公平」は違う。相手の立場や状況をよく理解していくことや、いろいろな視点をもつことが大切であると伝える。

今日の授業を受けて、これからの学校生活で心がけたいことを、具体的に書かせる。

3 評価について

級友の意見を聞きながら、公平性の判断基準について主体的に考えていたか、生徒の発言や道徳ノートの記述から評価を行う。

4 実践を振り返って

ロイロノートを使うことで、考えの「見える化」ができたが、個々の入力に手間取り、意見交換が深まりづらい面がある。

また、色の付箋を使って黒板に掲示する方法も有効であった。今後は、考える、議論する時間となるように、生徒の状況を考慮して授業を展開していきたい。

1 本授業におけるポイント

- 近くの席の友達だけではなく、一対一の形でクラス全員と意見を交流することで多くの考えに触れられるようにする。また、自分とは異なる意見をもった友達と話し合うことで新たな考えを得て、自分の考えが深まるようにする。
- 展開では問題意識をもてるようにするため、終末では道徳的価値の自覚を深めるために、発問を工夫する。

2 授業の実際

1 主題・教材名 社会正義の実現

「杉原千畝—大勢の人の命を守った外交官—」（日本文教出版）

2 ねらい

同じ人間同士なのに虐げられ差別される人がいることは、他人ごとではなく、自分にできることを精一杯行動することで社会を正せることを理解し、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

（1）導入 日本の置かれた状況について理解する。

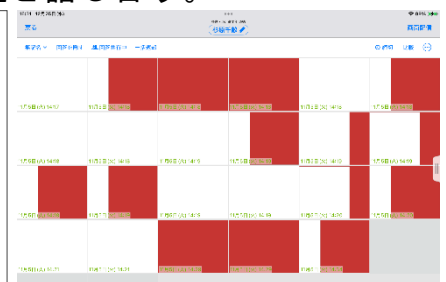
教 師：杉原千畝はなぜビザを書いたのでしょうか？
 児童A：多くのユダヤ人の命を救うために書いた。
 児童B：書かないとユダヤ人が殺されてしまうから。
 児童C：書くことで、日本とドイツとの関係が悪くなってしまうのに・・・。
 児童D：自分一人ではなく、国同士の関わりなのに・・・。

○ 指導上の留意点・支援等

杉原千畝がビザを書くことでユダヤ人の命を救うことができるが、日本の置かれていた状況や、ビザを書くことでドイツとの関係が悪くなってしまう可能性があることを押さえる。その際に、家族や友達など自分にとって大切な人たちのことを想像させることで、杉原千畝の選択が困難であることを理解できるようにする。

（2）展開 自分だったらビザを書くかどうかを考え、友達と話し合う。

教 師：もし自分だったら、杉原千畝のようにビザを書きますか？その理由は？
 児童A：書かない・・・。親交が途切れ敵対してしまうと、6千人のユダヤ人よりも多くの日本人が死んでしまうかもしれないから。
 児童B：書きません。自分だけでなく、家族までも罰せられてしまうから。
 児童C：書きます。人生一度きりだから後悔したくない。ユダヤ人の命を救いたいから。



ロイロノートを使って自分の意思を示す

○ 指導上の留意点・支援等

まず、書くか書かないかという自分の立場を明確にさせる。その際にタブレットを使用して、誰がどちらの立場なのかを捉えやすくする。(白→書く、赤→書かない) 話し合う際には、同じ立場の友達と話し合わせるが「理由は同じなのか確認してみて。」と声をかける。こうすることで、同じ立場でも異なる理由をもっている人がいることを意識できるようにする。また、異なる立場の友達と話し合う際には「立場は違うけれど、共通点があるかもしれないよ。」と声をかけることで、意識して友達の意見を聞けるようにする。

(3) 終末 杉原千畝を支えていたものについて考えることで価値理解にせまる。

教師：杉原千畝の行動って正しかったのかな？

児童A：正しいと思う。日本人もユダヤ人も関係なく、命の重さはみんな同じと思っている。

児童B：自分が与えられた役割を果たしたいという信念がすごい。

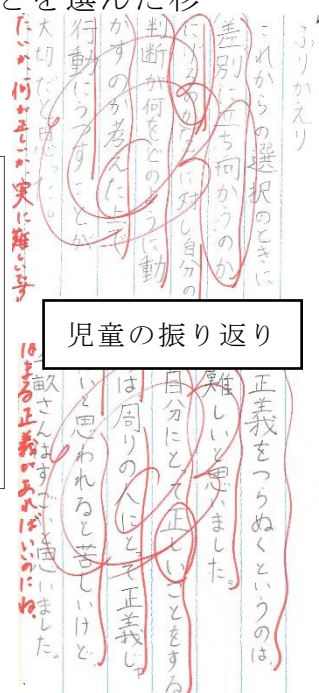
児童C：誰に対しても公正・公平にできているのがすごい。

○ 指導上の留意点・支援等

ビザを「書く」ことを選んだ児童も「書かない」ことを選んだ児童も批判されることのないようにする。それぞれが何を大切にして選択したのかを聞くようにする。多くの危険性がある中で、それでも「書く」ことを選んだ杉原千畝の思いや支えているものが何なのかについて考える。

3 評価について

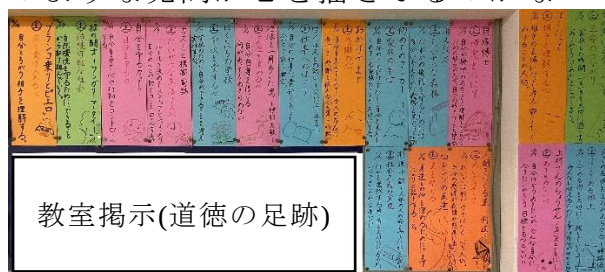
展開にも述べたように、まずはどちらの立場なのかを明確にさせる。話し合い活動を通して自分の意見が変容する児童もいる。「意見を変えてもいいですか？」と言ってきた際には「いいよ。話し合うことで考えが深まったんだね。」と声をかけ、心の変容を認めるようにする。タブレットを使って自分の意見を示すことで、担任にも友達にも意見の変容を見取れるようにする。また、道徳ノートも併用することで、自分の考えをノートにまとめるようにする。



4 実践を振り返って

今までは、こだわりもなくただ何となく道徳の授業をしていた気がする。多くの研修に参加することで、まずは人間理解から始まり他者理解、最後に価値理解に向かっていくことを学んだ。また展開では問題意識をもてるようにするため、終末では道徳的価値の自覚を深めるために、どのような発問をすれば児童の心に問いかけられるのかを意識するようになった。そうすることで、ただ意見を交わしていただけの時間が、児童同士が議論する時間へと少しだが変わっていったように感じる。また、教室内に道徳の足跡を残すことで、いつでも振り返られるようにするなど、自分自身の意識が変わっていったように思う。

しかし、教材によっては児童が議論するところまでに至らないことも多々ある。児童に身に付させたい道徳性は何なのか、どのような発問が心を揺さぶるのかなど、教材研究を重ねていく必要がある。



1 本授業におけるポイント

- 教科書を先に読まずに、「ある先生の体験談」として紹介し、ストーリーに順々に発問しながら、問題解決的な学習スタイルで考えを深めていくようにする。先の展開が分からない中で議論することで、より自由な発想を促す。教科書は授業後半に活用し、道徳的価値の理解を深める一助とする。
- 生徒の意見を対比的にまとめたり、グループの意見を記入したホワイトボードを掲示したり、学習活動の流れが見えるように板書の構造化に努める。

2 授業の実際

1 主題・教材名 公平であること「ある日のバターボックス」(廣済堂あかつき)

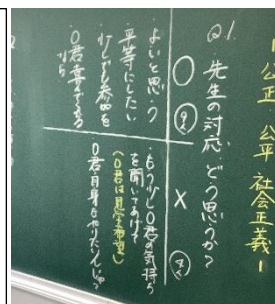
2 ねらい

○ 君のために「よかれ」と思い行ってきた配慮は、自分勝手な決めつけによる無意識の偏見であったことに気付いた筆者の体験談に触れながら、誰に対しても公平であることのよさや大切さに気付き、差別や偏見をなくし、誰もが生き生きとできる社会の実現に努めようとする道徳的態度を養う。

3 学習指導過程

(1) 導入 「担任の先生の配慮・対応」をどう思うか問う。

教 師：○君に対する先生の配慮・対応をどう思いますか。
 生徒A：よい。先生なりに○君に対して、できる限りの対応をしていると思う。
 生徒B：よい。足の悪い○君を見学させるのではなく、少しでも参加させてあげたいという先生の優しさや気遣いを感じる。
 生徒C：よくない。活動に参加できずに近くでサポートするだけなら余計にやりたくなるかもしれない。
 生徒D：よくない。○君は見学をしたいと思っているかもしれない。



○ 指導上の留意点・支援等

発問に対する考えを生徒全員に発表させ、それぞれの意見を対比的に板書する。一人ひとりがどのように考えているか互いに知ること、グループでの話し合い活動の活性化につなげていく。

(2) 展開 ○君の本心について考える。

教 師：体育の授業時、様々な配慮をしてもらう○君ですが、つまらなそうな表情で、生気が感じられない様子だそうです。なぜだと思いますか。
 生徒A：楽しそうに活動しているみんなを、うらやましいと感じているから。
 生徒B：自分だけ違うことをするのは、面白くないと感じているから。
 生徒C：○君もできる範囲でみんなと同じことをやりたいと思っているから。

○ 指導上の留意点・支援等

周囲の配慮とは裏腹なO君の様子を具体的に伝え、よかれと思っていた配慮が相手のためになっていなかったこと、相手のことを自分勝手に理解し、無意識のうちに偏見の目で相手を見ていたことに気付かせる。

(3) 終末 公正、公平な関わり方について考える。

教師：O君のためにどうすることがよかったと思いますか。

生徒A：自分勝手に判断するのではなくて、O君の気持ちをしっかりと聞いてあげることが大切だと思う。

生徒B：O君が参加できる種目を考えてみんなで楽しむ。

生徒C：O君が楽しめるようにルールを作る。

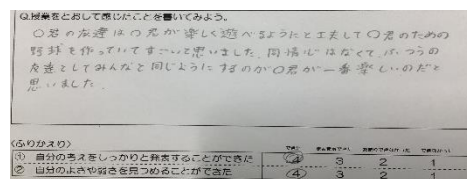
○ 指導上の留意点・支援等

導入時の発問に対する自分の思いと終末時の自分の思いの変化を確認させ、本当の配慮とはどのようなものなのかについて考える。それぞれのグループの意見を全体で共有することで、道徳的实践意欲と態度の涵養につながるようにする。

3 評価について

評価方法

道徳ワークシートの記述や、授業中の活動の様子から、公正、公平な行動について考えを深めたり、広げたりする姿が見られたか評価する。



4 実践を振り返って

教科書を一読した後に発問した場合、作者や登場人物に寄った考えや意見になることもあるので、教科書を先に読まずに「ある先生の体験談」という設定で生徒に紹介し、それぞれが感じた純粋な思いを聞き出せるようにしてみた。

導入時の発問に対して全員が個々の思いを素直に表現できたこと、小グループやペアでの話し合いを取り入れ自由に意見交換しながら、活発に話し合いを行えたことは成果であるといえる。しかし、少人数での学習は、多様な感じ方や考え方に会う場面が少なくなる傾向にある。より多くの考え方や感じ方に触れる機会を増やし、さらに議論を深めるためにも、保護者や地域の方に授業参加していただくことも有効な手立てであると改めて感じた。これからは、これまで以上に家庭や地域との連携を図った道徳教育を考えていきたい。

